令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	基礎分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法（講義）
科目名	歴史学（001）				
担当者	甘利弘樹				
授業概要	本授業では、日本医学史の大きな潮流を学びます。また、大分に注目しながら、日本に西洋医学がどのように広がったかについても検討します。				
到達目標	日本における医学の歴史的展開の特徴を把握すること、さらに、日本の西洋医学受容がいかなる意味を持っていたかを考えられるようになることを、目標とします。				
授業計画	＊構成・進度は変更することがありますが、以下のように予定しています。 1. ガイダンス、西洋医学の形成と発展――古代～中世(1) 2. 西洋医学の形成と発展――古代～中世(2) 3. 西洋医学の形成と発展――近世(1) 4. 西洋医学の形成と発展――近世(2) 5. 西洋医学の形成と発展――近代～現代(1) 6. 西洋医学の形成と発展――近代～現代(2) 7. 西洋医学の形成と発展――近代～現代(3) 8. 古代日本における医学(1) 9. 古代日本における医学(2) 10. 日本への西洋医学の広がり――中世～近世(1) 11. 日本への西洋医学の広がり――中世～近世(2) 12. 日本への西洋医学の広がり――中世～近世(3) 13. 日本への西洋医学の広がり――近代(1) 14. 日本への西洋医学の広がり――近代(2) 15. 定期試験				
成績評価	・成績評価は 100 点（出席状況、定期試験(レポートの提出)およびノート(コピー)の提出）を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・テキストは使用しません。 ・教材は担当教員が適宜プリント資料を配布します。また、映像資料も使用します。				
参考図書	・授業中に提示します。				
その他	・初回の授業において注意事項を説明します。 ・禁止する事項(私語・遅刻・マナー違反行為の禁止)は、授業期間中厳守しなければなりません。 ・ペアワークやグループ活動などのアクティブラーニング型の授業を行うことがあります。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	基礎分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	哲学(002)				
担当者	黒川　勲				
授業概要	西洋哲学の基本的知識を学ぶことを通して,「人間理解」の基盤と「きちんと考える」,「考え貫く」態度と力を養います。考える際に, 重要な道具となるのが言葉＝概念です。新しい言葉・概念を身につけるとともに, 今ある自分の言葉・概念を磨き, 自分の思考を展開したり, その思考を的確に表現したりできることを目指します。				
到達目標	1)哲学的な視点を身につけることができる。 2)授業の内容や教科書・資料の内容について重要な点や問題点を取り出すことができる。 3)重要な点や問題点を一つだけではなく, より多くの立場で考え、それを筋道たてて表現できる。				
授業計画	1. 哲学とは何か 2. 哲学の誕生 3. 人類の心の歴史 4. 動物の行動と人間の行動 5. 呪術的・神話的思考 6. 哲学のまなざしーピュシスの思想・存在についての問いー 7. 西洋哲学史の展開に関する概説 8. 古代ギリシャ哲学概説 9. ソクラテスとソフィスト 10. プラトン 11. アリストテレス 12. 中世哲学概説 13. 近世哲学概説 14. 哲学における死の問題 15. 定期試験				
成績評価	・成績評価は 100 点(毎授業の振り返り(ライティング)(10%), 中間課題レポート 1 回(30%)及び定期試験(60%))を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	授業内容に沿ったプリント等を配布します。				
参考図書	特にありません。				
その他	授業の最後に, 振り返り(ライティング)の時間をとりますので, 積極的に取り組んで下さい。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	基礎分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	教育学(003)				
担当者	山崎　清男				
授業概要	教育の意味を考えることから出発し、教育と人間の成長発達の関わり、さらに教育機関である学校にもふれながら、人間の「存在」にとっての教育の作用や機能を考える。また今日の教育問題を理解する前提として、教育制度や公教育、生涯学習についても述べ、基礎知識の習得をめざす。 医療従事者としての理学療法士・作業療法士の職務に「教育的視点」が必要であることを念頭におきながら考察することにより、医療と教育の関わりについて理解する。				
到達目標	1)人間の成長発達にとって教育が重要であることを理解する。 2)人間の成長発達と家庭教育、学校教育、社会教育が持つ役割関係を理解する。 3)今日の教育問題を解決するための視点を理解する。				
授業計画	1. 教育の本質 2. 教育の可能性・可塑性 3. 人間の成長発達と教育 4. 意図的教育と無意図的教育 5. 素質と環境 6. 教育の諸原理(1) 7. 教育の諸原理(2) 8. 教育の社会的機能 9. 現代の教育病理 10. 家庭教育 11. 児童虐待 12. 生涯学習の概念 13. 生涯学習論成立の社会的背景(1)―社会の変化と生涯学習 14. 生涯学習論成立の社会的背景(2)―教育危機と生涯学習 15. 定期試験				
成績評価	成績評価は 100 点(定期試験 80 点、ライティング 20 点)を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	特に使用しない。必要に応じて適宜資料を配付する。				
参考図書	参考資料は適宜授業の中で紹介する。				
その他	新聞等を読み、日々生起している教育問題(社会問題)に注意を払うことが望ましい。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	基礎分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	統計学(004)				
担当者	馬場　清				
授業概要	仮説検定の考え方と方法を学ぶ。これは、たとえば、新しい治療法が今までの治療法と比べて、効果があったかどうかを統計的に検証できる方法である。また，臨床研究デザインに現れる感度･特異度，オッズ比についても学ぶ。				
到達目標	卒業後、自分でデータを集めて、実地に仮説検定が行えるための基本となることを目指す。				
授業計画	1. 母集団とサンプル 2. 正規分布と標準正規分布 3. 仮説検定の考え方 4. 仮説検定の例 5. 両側検定と片側検定 6. 問題演習 7. t分布とt検定 8. 2 サンプル平均値検定 9. 対応のある 2 サンプル平均値検定 10. 1 サンプル比率検定 11. 2 サンプル比率検定 12. カイ 2 乗検定の手順 13. カイ 2 乗検定の例 14. 感度･特異度，オッズ比 15. 定期試験				
成績評価	･成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ･成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ･再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	「PT･OT のための統計学入門」 三輪書店　渡邊　宗春、寺見　春恵、金子　翼　著				
参考図書	なし				
その他	なし				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	基礎分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	物理学(005)				
担当者	安達　佳輝				
授業概要	Physical Therapy 理学療法。Physical の語源は「Physics 物理学」です。基礎運動学では力による重力環境下での人の運動を学びます。物理療法では電気や水の物理的特性を治療に応用します。これから学ぶ専門基礎分野や専門分野の授業科目には物理学を基礎とした内容も含まれます。この科目は、基礎分野としてこれからの理学療法の学習に必要な物理学の基礎的素養を学びます。				
到達目標	物理療法学や基礎運動学で学ぶ以下の物理現象を理解することを目標とします。 1)　速度と加速度 2)　力の作用 3)　熱 4)　音波と電磁波				
授業計画	1. 第 2 章　物理量とその表し方(記号と単位、国際単位(SI)、指数) 2. 第 3 章　物理学で使うグラフと関数(三角関数、) 3. 第 4 章　いろいろな運動(位置と変位、速度、速度のグラフ) 4. 第 4 章　いろいろな運動(加速度、加速度のグラフ、等加速度直線運動) 5. 第 5 章　さまざまな力(力とは、単位、重力、垂直抗力、摩擦力、弾性力、圧力、浮力) 6. 第 5 章　力のつり合いと運動の法則(合成分解、慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則) 7. 第 6 章　力のつり合いと運動の法則 8.　中間試験 9. 第 7 章　物体の重心と回転運動(重心位置の計算、モーメント、てこ) 10. 第 7 章　物体の重心と回転運動(重心位置の計算、モーメント、てこ) 11. 第 8 章　運動量、仕事とエネルギー(運動量、仕事、運動エネルギー、位置エネルギー) 12. 第 9 章　温度と熱(温度、熱、比熱、熱の伝わり方) 13. 第 10 章　波の運動(波の特徴、振動数、周期、波長) 14. 第 11 章　音と光 15. 学期末試験				
成績評価	中間試験と学期末試験の他、課題で成績評価を行います。成績評価は学校が定める規程に従い 60 点/100 点以上を合格とします。				
教科書	「PT・OT ゼロからの物理学」望月久、棚橋信夫編著(羊土社)				
参考図書	高校で使用する「物理Ⅰ」の教科書・参考書 「基礎バイオメカニクス」山本澄子他著(医歯薬出版株式会社)				
その他	授業の途中に適度に thinking time として、学生相互に自由に質問や理解の確認を行う時間を設けます。それ以外の時間の私語は、担当教員に対する質問以外は基本的に控えてください。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	基礎分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	英語(006)				
担当者	御手洗　靖				
授業概要	基本的な表現を使った英語でのコミュニケーションを通して、英語を使う楽しさを知り、実践力を高める。				
到達目標	①基礎的な英語で，自分のことや理学療法に関わることを話す。 ②基礎的な英語で，理学療法で使う器具の説明を書くことができる。				

授業計画

	発音	読書	自己表現(ペア活動)	器具の説明(ペア活動)	ビデオ
1	リハビリの動作を表す短い文	イギリスの小学校で使われている絵本	あいさつ，名前，出身	各自が，毎回異なるリハビリ用の器具を相手に説明して，相手は何の器具か当てる。	義肢装具士 U 氏
2			身分，職業		リハビリ医 S 氏
3			住んでいるところ		S 氏の出勤
4			通学方法，通学時間		K さんと脳画像
5			電話，スマホ		攻めのリハビリ
6			誕生日，ほしいもの		S さんせん妄
7			性格，友人		S さん復帰
8			学校生活		S 医師の過去
9			余暇の過ごしかた		S 医師の転向
10			ファッション		重症患者 N さん
11			音楽		N さん自律する力
12			旅行		S 医師の父
13			夢		N さん外泊準備
14			試験用の復習		最終回
15			定期試験		

成績評価	・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする(授業中の貢献に対するボーナスポイントあり) ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する
教科書	・ 自作プリント(A4 サイズ)を配付します。紛失しないように保存してください。
参考図書	・ 和英辞書(電子辞書でもよい)を持参してください。
その他	・ A4 サイズのプリントを保存できるファイルを用意してください。 ・ ペアワークで，級友と協力する姿勢を養ってください。 ・ ガムをかんだり，スマホを使用したりしないでください。

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	基礎分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	保健体育(007)				
担当者	松田　史朗	大分医学技術専門学校教員(元高等学校保健体育教員)			
授業概要	この授業では、健康の増進や体力の向上を図るとともに、生涯を通じて運動を実践する態度や能力を身につける。				
到達目標	現在、わが国の現状を見ると自由時間の増加や生活水準の向上、 高齢化　社会の到来など著しく変化してきた。また多くの人々が余暇の活用としてスポーツを楽しむ時代となり、健康の増進や体力の向上を図るとともに、生涯を通じて運動を実践する態度や能力を身につける。				
授業計画	1. バレーボール 2. バレーボール 3. バレーボール 4. バレーボール 5. バレーボール 6. バドミントン(卓球) 7. バドミントン(卓球) 8. バドミントン(卓球) 9. バドミントン(卓球) 10. バスケットボール 11. バスケットボール 12. バスケットボール 13. バスケットボール 14. バスケットボール 15. 定期試験	※各競技についての準備や試合ができるための簡単なルールについて試合を通じて解説する。			
成績評価	・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	なし。				
参考図書	なし。				
その他	私語や講義と無関係な行為については、厳しく対処する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	人間関係論(008)				
担当者	佐藤圭子 理学療法士				
授業概要	・理学療法士には、対象者との信頼構築や多職種との効果的な連携を行うために、対人間関係能力が求められる。本科目では人々と相互に信頼された関係を築くために、お互いの考えを認知・共感・理解し、有効な関係を築く過程について学修する。				
到達目標	・良好な人間関係を作るための条件や要因を考察できる ・対人援助的立場や他職種連携において必要な基本的態度やコミュニケーション技法を理解する ・主体性をもって行動できる、心身ともに健康な医療者となるための素地を養う				
授業計画	1. 人間関係の振り返り(メタ認知、プロセスレコード) 2. コミュニケーションの仕組み(言語的・非言語的コミュニケーション) 3. コミュニケーション技法①(傾聴) 4. コミュニケーション技法②(質問・明確化と要約) 5. 対人葛藤と多様性 6. 患者との人間関係(感情コントロール・パターナリズム・リフレ―ミング) 7. チームワークとは 8. チーム医療と他職種連携 9. コンフリクトマネジメント 10. 急性期医療と在宅医療における他職種連携のちがい 11. アサーション①(事例検討) 12. アサーション②(事例検討の発表) 13. コーチングスキル 14. 職業性ストレス・自己管理 15. レポート試験				
成績評価	・成績評定は講義中に作成するワークシートやグループワーク(各 5～10 点の合計 50 点)、および最終レポート(50 点)により判定する。なお、講義への参加状況や取り組み姿勢等も成績評価に考慮する場合がある。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する。				
教科書	・コミュニケーション論・多職種連携論(医歯薬出版株式会社)				
参考図書	・その他、適宜講義資料を配布する				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	ハイブリット講義
科目名	解剖学Ⅰ(009)				
担当者	三浦　真弘				
授業概要	身体の正常な構造を学ぶのが解剖学、器官系の成り立ちを系統発生学的に学ぶのが形態学(Morphology)である。本科目では、脊椎動物の一員として陸上生活に特化して心身の発達を遂げてきたヒト型形態について、個体発生の考え方をベースにして人体のしくみを解剖学的・形態学的観点から基本形態を学ぶ。また、必要に応じて人体を構成する細胞・組織学についても顕微鏡写真を用いて解説してマクロミクロ、さらには臨床医学との橋渡しを行う。				
到達目標	解剖学・形態学を通して実践理学療法士として基礎となる人体構造と機能について多角的理解を目指す。臨床解剖学についても講義内容に含める。				
授業計画	1. 解剖学とは形態学とは 2. 人体構成の最小単位である細胞と組織・器官・器官系の関連①と発生学① 3. 人体構成の最小単位である細胞と組織・器官・器官系の関連②と発生学② 4. 体組織の分類-1 (1)上皮組織、②結合組織 5. 体組織の分類-2 (3) 筋組織(平滑筋、骨格筋、心筋)の構造と運動機能 6. 運動器系(骨筋系)の器官発生学 7. 体組織の分類-3 (4) 神経組織(神経細胞、神経膠)の構造と興奮伝達 8. 神経系の器官発生学 9. 中間試験 10. 各論1　循環器系(1)脈管学総論 11. 循環器系(2)心臓の基本構造と肺循環 12. 循環器系(3)体循環(13. 循環器系(4)胎児の血液循環、リンパ系総論(リンパとは、リンパの流れ) 14. リンパ系 (リンパ管、リンパ性組織、リンパ器官の構造と機能) 15. 定期試験				
成績評価	・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする(授業中の貢献に対するボーナスポイントあり) ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する ・最終評価は筆記試験の成績と受講態度を総合評価する(質問に対する積極的な発言など)				
教科書	・やさしい解剖学　小室正人ほか著 (医歯薬出版)ISBN978-4-263-24068-7 C3047				
参考図書	・おもしろ解剖学読本(金芳堂) ・標準理学療法学・作業量方角　専門基礎分野　解剖学(医学書院)				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	解剖学Ⅱ(010)				
担当者	三浦 真弘				
授業概要	人体を構成する細胞・組織の構造と機能、骨格系、筋系および中枢神経系の理解(既習)のもとに、系統別(循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿生殖系、感覚器系)に構造と機能について理解する。 また、発生学ならびに解剖学的知識をもとに、臨床医学への理解につなげる。				
到達目標	解剖学・形態学を通して実践理学療法士として基礎となる人体の基本構造を理解する。器官系の形態形成の基本形についても学ぶ。				
	1. 循環器系　①脈管学概論　②心臓の構造と機能 2. 循環器系　③肺循環と体循環系　④胎児の循環系 3. 循環器系　⑤リンパ学総論、②リンパ系　(免疫器官系含む) 4. 末梢神経系　①末梢神経概論、②脳神経　(一部中枢神経含む) 5. 末梢神経系　③脊髄神経系　④自律神経系 6. 呼吸器系　①内臓総論、②気道系と呼吸部の構造的特徴、③肺の基本構造 7. 消化器系　①消化管の一般的組織構造　②口腔、咽頭、食道 8. 消化器系　③実質臓器(肝、胆、膵)の構造と機能 9. 内分泌系　①総論、②内分泌器官系(ホルモン分泌細胞とホルモンの作用) 10. 泌尿器系　①排泄系総論、②腎臓の基本構造と機能(原尿の濾過と再吸収)、③尿路系(膀胱含む) 11. 男性生殖器系　①生殖器系総論(発生含む)、②精子形成(精巣)と精路、③男性ホルモン生成 12. 女性生殖器系　①卵巣(卵子形成)、子宮の基本構造、乳腺、受精メカニズム 13. 感覚器系　①感覚器総論、②皮膚一般知覚、③深部知覚、④特殊知覚(味覚、嗅覚) 14. 感覚器系　⑤特殊知覚(聴覚・平衡覚、視覚)　その他(試験の要点) 15　定期試験				
成績評価	・成績評価は合計点(100　点)で評価する。範囲については、変更することがあるので、その場合は別途、指示する。合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と判断する				
教科書	国家試験対策「解剖学」、健康と病気の仕組みがわかる解剖生理学				
参考図書	人体の構造と機能(日本医事新報社)				
その他	教材:デモ解剖ビデオ(Miura 作成・編集)				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	解剖学Ⅲ(011)				
担当者	大野　智之				
授業概要	解剖学Ⅲでは、総論に加え上肢の神経系・運動器系(骨・関節・筋)の構造について知識を高めることを中心に学習する。また学生間で互いに体表から触知し、部位別解剖も理解し、理学療法学を学ぶ基礎とする。				
到達目標	1)骨・関節の基本的構造について説明することができる。 2)筋・神経系の概要を理解する。 3)上肢骨・関節・筋の構造と機能について説明することができる。				
授業計画	1 オリエンテーション・人体の名称と区分・解剖学用語について 2 骨の構造と機能と分類について・骨スケッチ(骨を立体的に観察し, 部位の名称を憶える) 3.4関節の構造と機能と分類について 5 関節運動用語について 6 筋肉の構造と機能と分類と作用について 7 神経系の分類と作用と機能について 8 中間試験および学習内容の振り返り 9 上肢帯の骨格の構造と上肢骨の構造について 10.11 肩関節の構造と機能・肩関節周囲筋について 12 上腕部の骨と特徴と筋について 13 肘関節と前腕部の構造について 14 手関節と手の部及び指について 15 定期試験および学習内容の振り返り				
成績評価	・定期試験(筆記試験:中間試験 40 点、期末試験 40 点) ・骨スケッチ(6月末までに提出:10 点満点で評価する) ・講義毎の理解度チェックや自宅学習課題、および単元毎に小テストを実施する。(期末評定 10 点分に換算する) ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・受講態度(受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等)も成績評価に考慮することがある。				
教科書	・プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論/運動器系(医学書院) ・プロメテウス解剖学アトラス　頭部/神経解剖(医学書院) ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学(医学書院)				
参考図書	スケッチブック A3 版を各自準備すること。				
その他	講義中の能動的学習姿勢を高く評価する。しかし不適切な態度や消極的態度は望ましくなく、課題や復習を十分に取り組むこと。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	解剖学Ⅳ(012)				
担当者	大野智之				
授業概要	解剖学は医学系職種には必須の領域である。その領域は組織、内臓系、神経系、循環系、運動器系と膨大な内容が含まれる。この解剖学では、理学療法士に必要な解剖学領域を身体部位別に、体系的に、かつ初学者向けにその概略を学ぶ。				
到達目標	1)下肢および体幹の構造と機能について理解する。 2)下肢および体幹筋の付着部、作用について説明することが出来る。 3)下肢および体幹の動脈について各名称と位置関係を説明することが出来る。				
授業計画	1. 下肢解剖学の概観と下肢の関節 2. 寛骨・仙骨・尾骨・大腿骨 3. 脛骨・腓骨・膝蓋骨・足部の骨 4. 骨盤・殿部の筋 5. 大腿部の筋 6. 下腿・足部の筋 7. 股・膝・足の靭帯 8. 腰仙骨神経叢含む下肢体性神経 9. 下肢の動脈 (中間試験)		10. 体幹・頭頚部の捕らえ方 11. 脊柱の構造と機能① 12. 脊柱の構造と機能② 13. 頚椎の構造と機能 14. 胸椎・腰椎・仙骨と尾骨の構造と機能 15. 腰背部・胸部・腹部の構造と筋の作用 16. 頭頚部・顔面の構造① 17. 頭頚部・顔面の構造② 18. 体幹・骨盤・下肢の触診 19. 定期試験		
成績評価	・定期試験 100 点(骨スケッチ 10 点、小テスト 10 点、筆記試験 80 点)で評定する。 ・最終評定は各担当範囲を 50 点に換算し、計 100 点満点で評定する。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する。				
教科書	・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学第 4 版(医学書院) ・プロメテウス-解剖学総論・運動器系-(医学書院) ・プロメテウス-頚部・胸部・腹部・骨盤部-(医学書院)				
参考図書	・資料を配布する。 ・動画でマスター！機能解剖学的触診技術(下肢・体幹)				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法（演習）
科目名	解剖学演習（013）				
担当者	大野　智之				
授業概要	人体の構造・動きを理解することは理学療法士にとって重要な知識となる。本科目では、解剖学Ⅲおよび Ⅳ で学習した運動器系（骨・関節・筋）の知識を、応用発展的に演習の中で深めていく。				
到達目標	運動器系（骨・関節・筋）の知識について、模型や動画などを用いることで立体構造として認識し、筋・骨格系の機能について理解を深めることを目的とする。				
授業計画	1. 骨スケッチについて・履修範囲の復習と練習問題① 2. 骨スケッチについて・履修範囲の復習と練習問題② 3. 骨・関節の構造について① 4. 骨・関節の構造について② 5. 筋肉・神経系の復習について① 6. 筋肉・神経系の復習について② 7. 履修範囲の練習問題 8. 四肢・体幹の骨の位置① 9. 四肢・体幹の骨の位置② 10. 上肢骨の触診 11. 上肢筋の触診 12. 調べ学習と発表準備① 13. 調べ学習と発表準備② 14. 調べ学習と発表準備③ 15. 発表				
成績評価	・定期試験はなし。調べ学習の発表点とレポート課題にて評価する ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・なし				
参考図書	・PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート ・動画でマスター！機能解剖学的触診技術（上肢）				
その他	・解剖学、基礎運動学の補習としての位置づけで開講する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	生理学Ⅰ(014)				
担当者	定金香里、 大嶋　崇				
授業概要	障害を持つヒトを理解し、理学療法士としてその機能回復をはかるためには、ヒトの正常機能を理解しておくことが不可欠である。生体の正常機能についての科学である生理学を学ぶことが重要なのはこのためである。				
到達目標	生理学 Ⅰ、Ⅱ と合わせて生体の正常機能を理解する。そのために、まず身体の最小構成単位である細胞の働きと、運動系・神経系の知識の基礎となる細胞の興奮やシナプス伝達について重点的に学習する。その後、外界の変化にすばやく反応する機能(動物性機能)として、筋収縮による運動機能、情報を入力するための感覚機能、生体全体を統合制御する神経機能について学び、これらの機能を説明できるようになることを目指す。				
授業計画	1. 生理学とは？細胞の環境、構造、機能調節(定金) 2. 活動電位、イオンチャネル(定金) 3. シナプス伝達 1(定金) 4. シナプス伝達 2(定金) 5. 骨格筋の収縮(大嶋) 6. 自律神経系 1(定金) 7. 自律神経系 2(定金) 8. 中間試験 9. 運動系 1(大嶋) 10. 運動系 2(大嶋) 11. 運動の生理学(大嶋) 12. 感覚総論(定金) 13. 体性感覚(定金) 14. 味覚・嗅覚、聴覚・前庭感覚(定金) 15. 視覚(定金) 16. 脳の統合機能 1(定金) 17. 脳の統合機能 2(定金) 18. 期末試験				
成績評価	・成績評価は中間試験と期末試験を実施し、合計点(100 点)で評価する。範囲については、変更することがあるので、その場合は別途、指示する。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する。				
教科書	・「生理学テキスト」大地陸男(文光堂)				
参考図書	・バーン/レヴィ　カラー基本生理学(西村書店) ・ギャノング生理学(丸善) ・標準生理学(医学書院)				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	生理学Ⅱ(015)				
担当者	定金香里、大嶋崇				
授業概要	生理学Ⅰと同様に人の正常機能を学ぶ。生理学Ⅱでは、個体の生命維持、恒常性の維持および種の保存に関わる機能(植物性機能)について学習する。				
到達目標	各器官の役割やしくみなどの機能を正しく説明できる。具体的には血液の特性や免疫防御、心臓の刺激伝導系、循環調節、肺における呼吸運動とガス交換、酸塩基平衡、排尿、排便、消化管による栄養素の消化と吸収、体温調節、ホルモンによる恒常性の維持や生殖器官による種族の維持について理解する。				
授業計画	1. 血液 1(定金) 2. 血液 2(定金) 3. 心臓(大嶋) 4. 循環(大嶋) 5. 呼吸(大嶋) 6. 酸・塩基平衡 1(定金) 7. 酸・塩基平衡 2(定金) 8. 腎機能 1(定金) 9. 腎機能 2(定金) 10. 中間試験 11. 消化と吸収 1(定金) 12. 消化と吸収 2(定金) 13. 代謝、体温、サーカディアンリズム(定金) 14. 内分泌 1(定金) 15. 内分泌 2(定金) 16. 生殖機能(定金) 17. 期末試験				
成績評価	・成績評価は中間試験と期末試験を実施し、合計点(100 点)で評価する。範囲については、変更することがあるので、その場合は別途、指示する。合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	「生理学テキスト」大地陸男(文光堂)				
参考図書	・バーン/レヴィ　カラー基本生理学(西村書店) ・ギャノング生理学(丸善) ・標準生理学(医学書院)				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法（演習）
科目名	生理学演習（016）				
担当者	武田知樹・佐藤圭子・大嶋崇・大野智之・岡部陽介・分藤英樹				
授業概要	生理学で履修した内容の復習及び生理学分野における測定機器を用いた実際の計測を通して、人体の構造や機能について理解を深めることを目的とする。				
到達目標	1）生理学分野における測定機器の計測方法を学ぶ。 2）実際の計測を通して、生理学で履修した内容の理解を深める。				
授業計画	1. 心臓・循環生理学復習（大野） 2. 心電図計測・解釈（大野） 3. 呼吸生理学復習（分藤） 4. 呼吸機能の測定（分藤） 5. 運動負荷試験・運動処方（大嶋） 6. 運動負荷試験・運動処方（大嶋） 7. 骨格筋生理学復習（岡部） 8. 筋電図演習（岡部） 9. 平衡機能 （重心動揺計演習①）（武田） 10. 平衡機能 （重心動揺計演習②）（武田） 11. 体性感覚・味覚の生理学復習・演習（佐藤） 12. 体性感覚・味覚の生理学復習・演習（佐藤） 13. 視覚の生理学基礎・盲斑、対光反射の演習（視能） 14. 視覚の生理学基礎・盲斑、対光反射の演習（視能） 15. 聴覚・前庭感覚生理学の基礎（言語） 16. 聴覚・前庭感覚生理学の基礎（言語）				
成績評価	・成績は上記履修内容から 6 題以上をレポート課題として呈示し、評価する。 ・各課題の評価を合算して 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。60 点未満の場合は、再度課題を課すこととする。 ・再度課題提出となった場合は、評価が 60 点以上であっても科目成績を 60 点と記録する。				
教科書	別途配布資料				
参考図書	特になし				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	基礎運動学Ⅰ(017)				
担当者	分藤英樹(実務経験者) 理学療法士	急性期病院で整形外科疾患患者の理学療法の経歴を持つ。			
授業概要	運動学とは人の運動を力学的に理解することを主とした科目であり、また理学療法・作業療法の教育課程に特徴的な科目です。その領域は解剖学等も含む学際的な側面を持ちます。 基礎運動学Ⅰでは、基本的な歩行の仕組みとその運動メカニズムを学びます。				
到達目標	1)解剖学用語を理解する。 2)立位姿勢、正常歩行を理解する。 3)バイオメカニクスにおける基礎を理解する。				
授業計画	1.　人の身体、面と方向(身体部位、関節、その運動、基本面と方向) 2.　人の姿勢と支持基底面(いろいろな姿勢と姿勢の安定性) 3.　正常歩行(用語、歩行周期) 4.　正常歩行(重心の動き、関節の動き) 5.　正常歩行(グループ演習) 6.　歩行の評価(歩行率、歩行比、平均歩幅、平均ストライド長、平均速度) 7.　歩行の評価(グループ演習) 8.　中間試験及び学習内容の振り返り 9.　生体におけるバイオメカニクス 1(重心の求め方) 10. 生体におけるバイオメカニクス 2(運動とてこ) 11. 床反力(COP、人が静止するとき、上下左右前後に動くとき、COP の逆運動) 12. 床反力(歩行中の鉛直分力、左右分力、前後分力) 13. 国家試験問題とその理解 1 14. 国家試験問題とその理解 2 15. 定期試験及び学習内容の振り返り				
成績評価	・成績評価は課題(10 点)、受講状況(10 点)、確認試験(20 点)、中間試験(30 点)、定期試験(30 点)にて行う。 ・課題は事前学習、レポート作成を適宜提示する。 ・受講状況(受講中の居眠り、教員の指示の遵守、能動的な授業への関わり)も成績評定に考慮する。 ・確認試験は事前に範囲を提示し、授業中に行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とし科目単位を付与する。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。				
教科書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　運動学(医学書院) PT-OT 基礎から学ぶ運動学ノート(医歯薬出版)				
参考図書	その他資料を配布します。				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	基礎運動学Ⅱ(018)				
担当者	安達佳輝(実務経験者) 理学療法士	リハビリテーション病院で脳血管疾患患者の理学療法の経歴を持つ。			
	分藤英樹(実務経験者) 理学療法士	急性期病院で整形外科疾患患者の理学療法の経歴を持つ。			
授業概要	この科目は、物理学、基礎運動学Ⅰを基礎とした歩行中の関節モーメントや異常歩行と、解剖学を基礎とした四肢関節の関節運動学に大別されます。国家試験でも必須領域のため、国家試験問にも触れながら授業を進めていきます。				
到達目標	1)正常歩行における筋の活動と関節モーメントを理解する。 2)身体に機能障害を生じた際の多様な異常歩行を理解する。 3)四肢関節の運動メカニズムを理解する。				
授業計画	1.　歩行中の筋活動(活動時期、収縮様式) 2.　関節可動域制限による異常歩行 3.　筋力低下による異常歩行 4.　歩行中の関節モーメント 5.　国家試験問題とその理解 1 6.　国家試験問題とその理解 2 7.　中間試験 8.　肩甲骨、肩甲上腕関節の運動 9.　肘関節の運動 10. 手の運動(指関節、母指、握り、つまみ、変形、神経麻痺) 11. 股関節の運動(ヤコビー線、靱帯) 12. 膝関節の運動(FTA、ミクリッツ線、外反膝内反膝、靱帯) 13. 足関節の運動(足部の関節、趾関節、変形) 14. 足部のアーチ構造(縦足弓、横足弓、) 15. 定期試験				
成績評価	中間試験と学期末試験の他、課題で成績評価を行います。成績評価は学校が定める規程に従い 60 点/100 点以上を合格とします。				
教科書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　運動学(医学書院) PTOT 基礎から学ぶ運動学ノート(医歯薬出版)				
参考図書	その他資料を配布します。				
その他	授業の途中に適度に thinking time として、学生相互に自由に質問や理解の確認を行う時間を設けます。それ以外の時間の私語は、担当教員に対する質問以外は基本的に控えてください。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(対面講義)
科目名	運動機能構造学(019)				
担当者	三浦 真弘				
授業概要	各関節系の運動学的特徴(力学含む)を正確な解剖学エビデンスに沿って学びます。また、運動器疾患や運動障害の発症機序についても理解を深めます。臨床整形外科領域に関する運動器系の研究ﾄﾋﾟｯｸｽについては、適宜最新の話題を提供し、その都度、学生とともに討論形式で講義を進める予定です。そのためシラバスに記載した講義予定に沿わない講義内容になることが予想されます。一方、運動学・解剖学範囲の国試問題の傾向と特徴についても関連講義内で詳説します。				
到達目標	各関節の運動学的特徴を正確な形態学的エビデンスに基づいて深く学ぶ。 1)　運動器疾患・障害などの発症機序について、最新の機能解剖学的根拠について学ぶ(整形外科学 の基礎科学)。 2) 機能回復訓練法の解剖学的・運動学的根拠について理解する。 3) 運動機能評価に必要な解剖学的指標(触診法)について学ぶ。 4) 運動器の臨床解剖学・キネシオロジーに関する最新研究の意義を理解する 5) 種々運動現象について「それは何故か？」を考える真の力を養う。 6)　整形外科の基礎科学としての運動機能構造学の重要性を理解する。				
授業計画	1. 2.　確認試験 (事前配布レジュメから出題) 運動学基礎:国家試験出題傾向とねらい, 運動学用語の矛盾点　歩行周期、その他 3. 4.　確認試験の詳細解説-1、Ⅱ (臨床的解説含む) 5. 6. 上肢帯・肩関節の臨床解剖学 7. 8. 肘・前腕・手根・手根の臨床解剖学 9. 10. 肩・肩甲帯・肘・手根関節領域の整形外科的ﾄﾋﾟｯｸｽの臨床解剖 (絞扼性神経障害含む) (腕神経叢、手根管症候群、TFCC, 尺骨バリアンス、手根不安定症など) 11. 12. 骨盤・股関節　膝関節・足根関節の臨床解剖学-1 (腰仙骨神経叢) 13. 14.　VMO, PLS の臨床解剖学「膝関節の臨床解剖学ビデオ」、その他　など 15.　まとめ				
成績評価	・定期試験結果を中心にして総合評価 (受講態度や講義ノートの内容も評価に加える) ＃試験の要点は関連講義内で、レジュメ資料を利用して解説します。				
教科書	・指定:臨床のための解剖学 (ﾒﾃﾞｨｶﾙｻｲｴﾝｽ・ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ) ＃本テキストは、臨床解剖学テキストとして臨床医学において広く活用されています。広汎な活用を望みます。				
参考図書	リハビリテーション解剖アトラス (医歯薬出版)、胎児の世界　三木成夫(中央公論新社)、				
その他	・定期試験は、講義内容の他、国家試験の出題傾向にも配慮する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	人間発達学(020)				
担当者	田中　洋				
授業概要	1. 人間発達に関する基礎的知識を学ぶ。 2. 基礎的な発達理論について学ぶ。 3. 周産期、新生児期、乳児期から学童期にかけた子どもの発達過程について学ぶ。 4. 各時期における障がいとその基礎知識を学ぶ。				
到達目標	人間発達学における基礎的知識を修得するとともに、各ライフステージにおける発達の課題やその特徴を理解すること。				
授業計画	1. 人間発達とは:成長と発達及び学習との関係 2. 基礎的な発達理論について①:漸成説(発達段階説) 3. 基礎的な発達理論について②:非発達段階説 4. 生涯発達の研究方法について 5. 発達と遺伝について 6. 出生前の発達:周産期と子どもの誕生について 7. 新生児期 8. 乳児期及び幼児期前期の発達①:運動発達 9. 乳児期及び幼児期前期の発達②:認知的発達 10. 乳児期及び幼児期前期の発達③:情緒的・社会的発達 11. 幼児期後期の発達①:運動発達・認知的発達 12. 幼児期後期の発達②:情緒的・社会的発達 13. 学童期の発達①:運動発達・認知的発達 14. 学童期の発達②:障がい児の発達と特別支援について 15. 定期試験				
成績評価	・成績評価は 100 点(普段の出席及び授業態度 30 点、定期試験 70 点)を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・上田礼子著「生涯人間発達学」三輪書店				
参考図書	・参考図書:田中昌人著「乳児の発達診断入門」大月書店 ・参考図書:田丸尚美「乳幼児健診と心理相談」大月書店 ・心理科学研究会編「新・乳幼児心理学」有斐閣				
その他	授業の進行に応じ、適宜、ビデオ等映像教材を活用する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	臨床心理学(021)				
担当者	古賀　精治				
授業概要	ひとの人格形成の基礎となる心の発達について学ぶとともに、将来、医療現場等で公認心理師・臨床心理士等と協働していく上で必要とされる臨床心理学の基礎知識、すなわち心理査定や代表的な心理療法について、視聴覚教材等も用いながらできるだけわかりやすく論じる。				
到達目標	1)人の心の発達ついて説明することができる。 2)臨床心理におけるアセスメントの目的と検査方法について理解する。 3)代表的な心理療法について理解する。				
授業科目	1. ストレスと心の健康 2. 発達の概念と規定因 3. 乳児期・幼児期の発達課題 4. 児童期・青年期の発達課題 5. 成人期の発達課題 6. 心理アセスメントとは 7. 発達検査と知能検査 8. パーソナリティ検査:質問紙法 9. パーソナリティ検査:投影法 10. 発達障害のある人の理解と支援 11. 心理療法とは 12. 精神分析 13. 行動療法・認知行動療法 14. 来談者中心療法、森田療法、自律訓練法等、その他の心理療法 15. 定期試験				
成績評価	・成績評価は合計点(100 点)で評価する。範囲については、変更することがあるので、その場合は別途、指示する。合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	図説心理学入門（誠信書房）				
参考図書	必要に応じて資料を適宜配布する。				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	病理学概論(022)				
担当者	松浦恵子･泥谷直樹･内田智久･塚本善之･黒木秀作				
授業概要	病理学は病気の成り立ち(メカニズム)を明らかにする学問であるが、医療の現場では、病気の組織診断に欠かせない検査という側面も併せ持っている。本科目では、この病理学の二つの側面を正しく理解し、かつ、病理学総論ならびに各論の概要を学ぶ。				
到達目標	1)病理学の意義、概要について理解する。 2)各疾患に対して理学療法ならびに作業療法がいかなる効果を期待できるのかを学ぶ。				
授業計画	1.　病理学の概要、病因論(松浦) 2.　先天異常、奇形(松浦) 3.　神経系(内田) 4.　消化管(内田) 5.　循環障害(黒木) 6.　循環器(泥谷) 7.　炎症、免疫、感染症(泥谷) 8.　呼吸器(泥谷) 9.　造血器(黒木) 10. 泌尿･生殖器(黒木) 11. 腫瘍の分類、発生のメカニズム(塚本) 12. 腫瘍の分類、発生のメカニズム(塚本) 13. 運動器、皮膚感覚器(内田) 14. 内分泌臓器･代謝(内田) 15. 定期試験				
成績評価	･成績評価は合計点(100 点)で評価する。範囲については、変更することがあるので、その場合は別途、指示する。合計点が 60 点以上を合格とする。 ･成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ･成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ･再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	標準理学療法学･作業療法学　病理学概論(医学書院)				
参考図書					
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法（講義）
科目名	臨床医学Ⅰ（023）				
担当者	李　康生（実務経験者） 医師		医学博士を修め基礎医学分野で豊富な経験を有する。その後、臨床検査技師専門学校に勤務し、臨床医学に携わっている。		
授業概要	この授業では、基礎医学の知識をもとに、臨床医学全般について学ぶ。				
到達目標	基礎医学の知識を踏まえ、臨床医学分野の全般を説明することによって、学生が基本的臨床知識や能力を習得し、身に付けてもらう。				
授業計画	1. 医学概論、診断概要 2. 薬物療法、ワクチン 3. 救急救命 4. 腫瘍、移植、脳疾患 5. 妊娠の成立と異常 6. 眼疾患 7. 耳鼻咽喉科 8. 定期試験				
成績評価	・　成績評価は筆記試験と課題（小テストや課題など）および講義への取り組みから総合評定を行う。 ・　成績評価は 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。 ・　成績の基準は S:90 点以上、A：80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・　再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点で記録する。				
教科書	PT/OTのための一般臨床医学（第 2 版）　医歯薬出版				
参考図書	授業内容に合わせる印刷				
その他	私語や講義と無関係な行為については、厳しく対処する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法（講義）
科目名	臨床医学Ⅱ（024）				
担当者	桑原　宏（実務経験者） 診療放射線技師	診療放射線技師として医療機関などで豊富な撮像経験を有す。			
授業概要	この授業では、画像読影をしながら疾患について学ぶ。				
到達目標	1.　画像を通して解剖と生理について学ぶ。 2.　撮像の基本的な仕組みと、画像読影の基本を学ぶ。				
授業計画	1.　画像検査（X線・CT・MRI）の基礎知識 2.　脳画像読影の基礎知識 3.　胸部・腹部 4.　脊柱 5.　上肢・下肢 6.　超音波検査（頸動脈・関節） 7.　練習問題・まとめ 8.　定期試験				
成績評価	・　成績評価は筆記試験と課題（小テストや課題など）および講義への取り組みから総合評定を行う。 ・　成績評価は 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。 ・　成績の基準は S:90 点以上、A：80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・　再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点で記録する。				
教科書	PT・OT のための画像のみかた（金原出版）				
参考図書	特になし。				
その他	私語や講義と無関係な行為については、厳しく対処する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法（講義）
科目名	臨床医学Ⅲ（025）				
担当者	武田知樹（実務経験者） 理学療法士	理学療法士として、リハビリテーション病院において脳血管疾患患者に対する自宅復帰等に向けたリハビリテーションの経験を持つ。また、専門理学療法士（神経・生活環境支援）の資格を有している。			
	大嶋　崇（実務経験者） 理学療法士	亜急性期、回復期、生活期の理学療法を病院、施設で経験し、多くの脳血管障害患者、神経難病患者、内部障害患者を中心に担当した経験を持つ。認定理学療法士（呼吸・教育）の資格を有している。			
授業概要	高齢期における健康問題として、予防医学の観点から「ロコモティブシンドローム」「メタボリックシンドローム」「サルコペニア」「フレイル」「栄養」などのトピックスを取り上げて、地域在住の虚弱高齢者にかかわる理学療法士として理解しておくべき知識を修得することを目的とする。				
到達目標	高度化する医療ニーズに対応できる知識を修得することを到達目標とする。				
授業計画	1.　生活習慣病予防のためのさまざまな取り組み（1）（武田） 2.　生活習慣病予防のためのさまざまな取り組み（2）（武田） 3.　生活習慣病予防のためのさまざまな取り組み（3）（武田） 4.　生化学・栄養学の基礎知識（大嶋） 5.　リハビリテーションと栄養・経管栄養について（大嶋） 6.　リハビリテーションとサルコペニアと栄養療法について（大嶋） 7.　理学療法士が知っておくべき薬理学（大嶋） 8.　まとめ 9. 定期試験（レポート形式）				
成績評価	・講義毎の理解度チェックや自宅学習課題を行い、科目成績の一部として反映させる。 ・科目成績は、講義毎の理解度チェックや自宅学習課題（5 点×8 回＝40 点）と定期試験（武田 30 点、大嶋 30 点、計 60 点）の合計 100 点満点で評価する。 ・成績基準は、S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・成績評価は合計点が 60 点以上を合格として科目単位を付与し、60 点未満では単位付与は行わない。 ・受講態度（受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等）も成績評価に考慮することがある。				
教科書	・理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション（南江堂）				
参考図書	・リハベーシック生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社） ・フレイルの予防とリハビリテーション（医歯薬出版株式会社）				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法（講義）
科目名	臨床医学Ⅳ（026）				
担当者	高橋　健（実務経験者） 医師	医師として総合病院の救急科部長兼総合診療科部長として勤務している。診療科の特性上、多くの疾患や救命救急に精通している。			
	及川　真人（実務経験者） 理学療法士	理学療法士として急性期の病院で呼吸班として勤務している。外科周術期や呼吸器疾患患者を中心に理学療法を行っている。			
	大野　智之（実務経験者） 理学療法士	理学療法士として急性期の総合病院に勤務し、外科周術期理学療法の経験を持つ。また、3 学会合同呼吸療法認定士・認定理学療法士（呼吸）の資格を取得している。			
授業概要	地域在住の虚弱高齢者にかかわる理学療法士として有しておくべき救急救命や急性期の理学療法、災害医療に関わる知識・技術を修得することを目的とする。				
到達目標	1）救命救急の基本を理解する 2）急性期に理学療法を行う上でのリスク管理について理解する 3）急性期や災害医療、地域在住高齢者に関わる医療職の役割を知る				
授業計画	1. 救急救命①　～救急救命の基本～ 2. 救急救命②　～治療と管理～ 3. 救急救命②　～治療と管理～ 4. 急性期のリスク管理 5. 外科系術前後の理学療法 6. 臨床薬理　～セラピストが知っておくべき薬物療法～ 7. 災害医療 8. 定期試験				
成績評価	・定期試験（レポート試験） ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S：90 点以上、A：80 点以上、B：70 点以上、C：60 点以上、D：60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	リハビリテーションリスク管理ハンドブック第4版（メジカルビュー社）				
参考図書					
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法（講義）
科目名	内科学Ⅰ（027）				
担当者	丹羽裕子（実務経験者）	内科医として長きにわたり診療に携わってきた経歴を持つ。現在も施設長として外来診療、入所者の診療に携わっている。総合内科専門医、循環器専門医			
授業概要	高齢者の増加に伴い内科的慢性疾患などを有する割合が高くなっており、患者の全身状態を把握する上でも内科的基礎知識が必要となる。そこで医療職として必要な内科疾患全般に関する基礎的な知識を養うことを目標とする。				
到達目標	1）　問診のとりかた、カルテの書き方、症候を理解する 2）　心疾患の病態を理解し、心電図の基礎を理解する。 3）呼吸器疾患の病態を理解する。 4）消化管の生理機能、病態を理解する				
授業計画	1.　内科学とは（問診、カルテ記載方法、診察法など） 2.　内科学とは（問診、カルテ記載方法、診察法など） 3.　症候学 4.　症候学 5.　循環器疾患（解剖と心電図の理解、症候学） 6.　循環器疾患（解剖と心電図の理解、症候学） 7.　循環器疾患（各病態の理解） 8.　循環器疾患（各病態の理解） 9.　呼吸器の解剖と生理（呼吸機能検査、血液ガス所見の理解） 10. 呼吸器の解剖と生理（呼吸機能検査、血液ガス所見の理解） 11. 呼吸器疾患（各病態の理解） 12. 呼吸器疾患（各病態の理解） 13. 消化管疾患（解剖、生理、各病態の理解） 14. 消化管疾患（解剖、生理、各病態の理解） 前期定期試験				
成績評価	・定期試験は筆記100点で実施する。 ・60点以上を合格とする。				
教科書	・標準理学療法・作業療法学　内科学（医学書院）				
参考図書	病気が見えるシリーズ　Medic Media				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	内科学Ⅱ(028)				
担当者	丹羽裕子(実務経験者)	内科医として長きにわたり診療に携わってきた経歴を持つ。現在も施設長として外来診療、入所者の診療に携わっている。			
授業概要	高齢者の増加に伴い内科的慢性疾患などを有する割合が高くなっており、患者の全身状態を把握する上でも内科的基礎知識が必要となる。そこで医療職として必要な内科疾患全般に関する基礎的な知識を養うことを目標とする。				
到達目標	1)肝臓などの生理機能、病態を理解する 2) 糖尿病などの代謝性疾患と内分泌疾患の病態を理解する 3)血液疾患、腎・泌尿器疾患の病態を理解する。 4)膠原病・アレルギー疾患・免疫不全、感染症の多様な疾患の病態を知る。				
授業計画	1.　肝、胆、膵疾患(解剖、生理、各病態の理解) 2.　肝、胆、膵疾患(解剖、生理、各病態の理解) 3.　血液疾患(血液細胞と各病態の理解) 4.　血液疾患(血液細胞と各病態の理解) 5.　代謝疾患(代謝とは？糖尿病を中心に各病態の理解) 6.　代謝疾患(代謝とは？糖尿病を中心に各病態の理解) 7.　内分泌疾患(内分泌機構と各病態の理解) 8.　内分泌疾患(内分泌機構と各病態の理解) 9.　腎・泌尿器疾患(解剖、生理と各病態の理解) 10. 腎・泌尿器疾患(解剖、生理と各病態の理解) 11. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全(免疫機構と各病態の理解) 12. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全(免疫機構と各病態の理解) 13. 感染症(感染症とは？と各病態の理解) 14. 感染症(感染症とは？と各病態の理解) 後期定期試験				
成績評価	・成績評価は合計点(100　点)で評価する。範囲については、変更することがあるので、その場合は別途、指示する。合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・標準理学療法・作業療法学　内科学　第 3 版(医学書院)				
参考図書					
その他					

令和５年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門基礎分野	■必修　　□選択	1 単位 30 時間	授業方法（講義）
科目名	整形外科学Ⅰ（029）				
担当者	池邉修二（実務経験者）	整形外科医として長きにわたり臨床に携わり、人工関節、腱板断裂等の手術例も豊富である。リハビリテーションにも精通している。			
授業概要	医学の一臨床分野として主に運動器にかかわる整形外科学において、人間の解剖生理、病態を知ることで診断にいたる考え方を学び、さらに整形外科的治療法（保存的、観血的）について理解することが目標である。				
到達目標	１）整形外科学Ⅱ（２年後期）とともに、１年をかけて多様な整形外科疾患の保存的および観血的治療法について理解する。 ２）整形外科疾患のリハビリテーションについて理解する。				
授業計画	1. 整形外科とは何か 2. 整形外科の基礎科学 3. 整形外科の基礎科学 4. 整形外科的診断総論 5. 整形外科的診断総論 6. 疾患総論（整形外科的治療総論） 7. 疾患総論（骨関節軟部組織の感染症） 8. 疾患総論（関節リウマチと関連疾患） 9. 疾患総論（慢性関節障害） 10. 疾患総論（四肢循環障害、阻血性障害） 11. 疾患総論（先天性疾患） 12. 疾患総論（代謝性疾患） 13. 疾患総論（骨腫瘍） 14. 疾患総論（神経筋疾患） 15. 定期試験				
成績評価	・　成績評価は筆記試験と課題(小テストや課題など)および講義への取り組みから総合評定を行う。 ・　成績評価は 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。 ・　成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・　再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点で記録する。				
教科書	・標準整形外科学（医学書院）				
参考図書					
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	整形外科学Ⅱ(030)				
担当者	池邉修二(実務経験者)	整形外科医として長きにわたり臨床に携わり、人工関節、腱板断裂等の手術例も豊富である。リハビリテーションにも精通している。			
授業概要	医学の一臨床分野として主に運動器にかかわる整形外科学において、人間の解剖生理、病態を知ることで診断にいたる考え方を学び、さらに整形外科的治療法(保存的、観血的)について理解することが目標である。				
到達目標	1)整形外科学Ⅰ(2年前期)とともに、1年をかけて多様な整形外科疾患の保存的および観血的治療法について理解する。 2)整形外科疾患のリハビリテーションについて理解する。				
授業計画	1. 肩関節 2. 肘関節・手 3. 脊椎Ⅰ 4. 脊椎Ⅱ 5. 脊椎Ⅲ 6. 股関節 7. 膝関節 8. 足関節・足指 9. 骨折・脱臼 10. 脊髄損傷 11. 末梢神経障害 12. 骨腫瘍 13. 神経筋疾患 14. リハビリテーション 15. 定期試験				
成績評価	・成績評価は合計点(100 点)で評価する。範囲については、変更することがあるので、その場合は別途、指示する。合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・標準整形外科学(医学書院)				
参考図書					
その他	・整形外科学Ⅰ(2年前期)も担当しており、整形外科学全般を1年間かけて学ぶ。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法（講義）
科目名	神経内科学（031）				
担当者	吉留宏明（実務経験者） 医師	リハビリテーション専門病院に勤務した後、開業医として神経内科疾患を中心に、約 40 年間の豊富な実務経験を有す神経内科医。			
	井野邉純一（実務経験者） 医師	開業医として神経内科疾患を中心に、豊富な実務経験を有し、リハビリテーション関連の研究にも数多く携わっている。			
	垣迫真一（実務経験者） 医師	開業医として神経内科疾患を中心に、30 年以上の豊富な実務経験を有す神経内科医。			
授業概要	この授業では、医療職として必要な神経内科学全般に関する基礎的な知識を学ぶ。				
到達目標	神経内科学の症候群・診断学・治療学を理解させ、理学療法・作業療法に役立てるようにする。				
授業計画	1.　筋萎縮のみかた　精神障害のみかた 2.　意識障害のみかた 3.　運動神経症、ミオパチー 4.　脳神経障害のみかた 5.　パーキンソン障害、錐体外路疾患 6.　運動障害のみかた、高次脳機能障害のみかた 7.　小脳障害のみかた　小脳疾患 8.　脊髄疾患 9.　脳血管障害 10.　脳卒中のみかた 11.　感覚障害のみかた　不随意運動のみかた 12.　感染症、髄膜炎、脳炎 13.　末梢神経疾患　脱髄性疾患 14.　神経内科概論　総合診断のしかた　腫瘍　発作性疾患 15.　定期試験				
成績評価	・　成績評価は筆記試験と課題（小テストや課題など）および講義への取り組みから総合評定を行う。 ・　成績評価は 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。 ・　成績の基準は S:90 点以上、A：80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・　再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点で記録する。				
教科書	・　標準理学療法・作業療法学　神経内科学（医学書院） ・　ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）				
参考図書	特になし。				
その他	私語や内職については、厳しく対処する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法（講義）
科目名	精神医学（032）				
担当者	宇都宮和則（実務経験者） 医師	精神科専門医として、臨床経験 35 年間以上の実務経験を有す。			
授業概要	この授業では、精神医学の基本的知識について学ぶ。				
到達目標	精神医学の基礎を中心に、最新のトピックスも紹介してゆく。 精神科治療学についても同様。				
授業計画	1. 精神障害の分類 2. 精神症状概論 3. 神経症性障害・ストレス関連性障害・身体表現性障害 4. 人格障害 5. 精神遅滞 6. 摂食障害 7. 精神作用物質による精神と行動の異常 8. 統合失調症 9. 気分障害 10. てんかん 11. 認知症 12. 症状精神病 13. 発達障害 14. 精神保健福祉法神経症 15. 治療概論 16. 定期試験				
成績評価	・　成績評価は筆記試験と課題（小テストや課題など）および講義への取り組みから総合評定を行う。 ・　成績評価は 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。 ・　成績の基準は S:90 点以上、A：80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・　再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点で記録する。				
教科書	・標準理学療法・作業療法学　精神医学（医学書院） ・要約版テキスト（私製品）				
参考図書					
その他	私語や講義と無関係な行為については、厳しく対処する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	小児科学(033)				
担当者	内山伸一(実務経験者) 医師	小児科領域で、20 年以上の豊富な実務経験を有す。			
	後藤千佳(実務経験者) 医師	小児科領域で、15 年以上の実務経験を有す。			
	武口真宏(実務経験者) 医師	小児科領域で、15 年以上の実務経験を有す。			
	山口智之(実務経験者) 医師	小児科領域で、10 年以上の実務経験を有す。			
授業概要	この授業では、医療職として必要な小児科学全般に関する基礎的な知識を学ぶ。				
到達目標	1)　小児疾患の概要について理解する 2)　小児と成人の違い、理学的所見の取り方、全身状態の把握について理解する				
授業計画	1.　小児科学概論(山口先生) 2.　診断と治療の概論(山口先生) 3.　神経・筋・骨系疾患①(内山先生) 4.　神経・筋・骨系疾患②(内山先生) 5.　神経・筋・骨系疾患③(内山先生) 6.　心身症・神経症、等(内山先生) 7.　新生児・未熟児疾患①(武口先生) 8.　新生児・未熟児疾患②・先天異常と遺伝病①(武口先生) 9.　先天異常と遺伝病②・循環器疾患(武口先生) 10.　内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患(後藤先生) 11.　腎・泌尿器・生殖器疾患(後藤先生) 12.　血液疾患、感染症(後藤先生) 13.　消化器疾患(山口先生) 14.　免疫・アレルギー疾患、膠原病、腫瘍性疾患(後藤先生) 15.　定期試験				
成績評価	・　成績評価は筆記試験と課題(小テストや課題など)および講義への取り組みから総合評定を行う。 ・　成績評価は 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。 ・　成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・　再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点で記録する。				
教科書	標準理学療法・作業療法学　小児科学(医学書院)				
参考図書	特になし				
その他	私語や講義と無関係な行為については、厳しく対処する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法（講義）
科目名	老年医学（034）				
担当者	深田健治（実務経験者）	内科医として長きにわたり診療に携わってきた経歴を持つ。現在も入院患者の診療に携わっている。また、リハビリテーションにも精通している。			
授業概要	超高齢社会を迎えたわが国において、老化の概念、高齢者医療の基本的な考え方、高齢者に特徴的な疾患等、チーム医療を行う上で理学療法士として必要とされる老年医学の知識を習得する。				
到達目標	1）老化と高齢者医療の基本的なあり方を理解する。 2）高齢者に特有な症状や病態について理解する。 3）多様な疾患を併せ持つ高齢者のリハビリテーションを理解する、				
授業計画	1. 加齢と老化、高齢者へのアプローチ、老年症候群 2. 循環器疾患 3. 呼吸器疾患 4. 腎疾患、泌尿器疾患 5. 神経疾患・精神疾患 6. 消化器疾患 7. 内分泌代謝疾患 8. 骨・運動器疾患 9. 血液・免疫疾患 10. 感染症				
成績評価	・定期試験を実施する。 ・定期試験は筆記 100 点満点で実施し、60 点以上を合格とする。				
教科書	・「老年学　第 5 版」（医学書院）				
参考図書					
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法(講義)
科目名	社会福祉学(035)				
担当者	四ツ谷年晴				
授業概要	高齢や障害になるとこれまでの生活をどのようにして維持するか等、様々な生活問題を引き起こすことになる。これを社会的に支援する制度が社会福祉制度である。これらの制度がどのように形成され発展してきたのか、また、今日の社会福祉の考え方や仕組みを理解して支援のあり方を学ぶ。				
到達目標	社会福祉制度の発展とその仕組みや理念について理解すること。				
授業計画	1　社会福祉の概念 2　今日の社会福祉の考え方や仕組み 3　高齢者福祉の変遷 4　高齢者のための介護保険制度 5　障害者福祉の変遷 6　障害者基本法や障害者総合支援法などの各種制度 7　社会福祉の最近の動向・まとめ 8　定期試験				
成績評価	・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・「国民の福祉と介護の動向」(厚生統計協会)				
参考図書					
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法（講義）
科目名	リハビリテーション概論（036）				
担当者	武居光雄（実務経験者）	日本リハビリテーション医学会専門医資格を有し、回復期病棟を備える医療機関にて診療に従事している。また、日本リハビリテーション医学会　代議員として、リハビリテーション医学の発展に貢献している。			
授業概要	これからリハビリテーション医学を学んでいく上での動機付けとなるよう、リハビリテーション医療全体を概観するとともに、医の倫理をはじめ医療人としての心構えについても学ぶ。				
到達目標	・リハビリテーション医学の概念を理解する。 ・医の倫理について理解する。 ・医療人としての心構えを習得する。				
授業計画	1. 医の倫理について 2. リハビリテーションとは 3. 障害について 4. リハビリテーションの過程 5. ノーマライゼーションの考え方 6. 障害の諸相、障害の受容 7. 事例検討、まとめ 8. 定期試験				
成績評価	・成績評価は合計点（100　点）で評価する。範囲については、変更することがあるので、その場合は別途、指示する。合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	「入門リハビリテーション概論」（医歯薬出版） 「目でみるリハビリテーション医学」（東京大学出版会）				
参考図書					
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法(講義)
科目名	地域リハビリテーション学(037)				
担当者	池田孝臣(実務経験者) 理学療法士		デイサービスに勤務し、地域に生活する高齢者の生活を日々支援し介護予防に従事する。		
	生野ユカ(実務経験者) 理学療法士		通所リハビリテーションに勤務し、地域に生活する高齢者の生活を日々支援し介護予防に従事する。		
授業概要	この授業では、地域に生活する高齢者や障がい者の生活とその生活を支援する諸制度や理学療法士他、多職種の取り組みを学ぶ。				
到達目標	1)介護保険制度と地域包括的ケアシステムについて理解する。 2)地域リハビリテーションに関わる職種と事業所を理解する。 3)実際の事例を通じて理学療法プログラムの実際を学習する他、介護予防に関する理学療法士の役割および実際を学習する。 4)地域で生活する重度身体障害者の状況を学び理学療法士としての取組みを学ぶ				
授業計画	1　地域リハビリテーションに関わる職種と事業所 2　介護保険制度及び介護保険制度下のリハビリ 3　介護の現場での理学療法士に求められる技術・資質 4　地域包括的ケアシステムについて 5　地域リハビリテーションの事例紹介① 6　地域リハビリテーションの事例紹介② 7　地域リハビリテーションの事例紹介③ 8　まとめ及び単位認定試験				
成績評価	単位認定試験(筆記)8 割、課題 1 割、授業参加度 1 割 池田 50 点、生野 50 点で採点し、合計 60 点以上を合格とします。				
教科書	地域リハビリテーション学テキスト(南江堂)				
参考図書	授業の進度に合わせて紹介します。				
その他	1)初回の授業において注意事項を説明します。 2)禁止する事項(私語・遅刻・マナー違反行為の禁止)は、授業期間中厳守しなければなりません。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法（演習）
科目名	地域リハビリテーション演習（038）				
担当者	佐藤圭子（実務経験者） 理学療法士	理学療法士として医療機関に所属し、回復期リハビリテーションや訪問リハビリテーションを通して、地域リハビリテーションに携わった経験を有している。			
授業概要	地域包括ケアの推進には、医療と介護の連携が欠かせず、そこには多職種が関わることとなる。そこで、この講義では専門職連携（IPW）の考え方に基づいて、様々な職種を目指す学生と同じ場所で共に学び合うことにより、様々な視点での考え方など理解を深める。				
到達目標	他職種の特徴を理解し、連携の中での自身の役割を見つける。 他学科とディスカッションする中で、問題解決能力を養い、専門職の立場でお互いを尊重し、協働して患者に関わる必要性を認識する。				
授業計画	1. 職種理解を深める①　～3 科合同オリエンテーション・職種体験準備～ 2. 職種理解を深める②　～職種紹介および体験～ 3. 職種理解を深める③　～3 科合同ディスカッション・発表準備～ 4. 職種理解を深める④　～発表「私たちの役割とは」～ 5. 仮想症例について考える①　～3 科合同オリエンテーション～ 6. 仮想症例について考える②　～症例検討～ 7. 仮想症例について考える③　～3 科合同ディスカッション・発表準備～ 8. 仮想症例について考える④　～発表～				
成績評価	・合同ディスカッションや発表準備において、グループ内での協調性や貢献度、また発表内容や態度によって評価する。（授業計画 1～4：50 点、5～8：50 点、合計 100 点とし、60 点以上を合格とする） ・成績基準は、S90 点以上、A80 点以上、B70 点以上、C60 点以上、D60 点未満とする				
教科書	地域リハビリテーション学テキスト（南江堂）				
参考図書	適宜、資料・プリント（講義時に配布）を使用する。				
その他	・他学科の学生と協働する唯一の機会となるため、積極的に取り組まれることを希望する。 ・近隣の新型コロナウイルス感染症の状況によっては、ディスカッションなどをオンラインで行うこともある。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	理学療法概論(039)				
担当者	武田知樹(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として、リハビリテーション病院において脳血管疾患患者に対する自宅復帰等に向けたリハビリテーションの経験を持つ。また、専門理学療法士(神経・生活環境支援)の資格を有している。			
授業概要	理学療法に関連する法律や理念、または理学療法士が活躍している保健・医療・福祉領域に関する制度や役割について学習する。				
到達目標	理学療法を取り巻く関連知識について総体的に習得することを通して、理学療法の具体的なイメージを作り上げる。				
授業計画	1. 理学療法の定義、歴史、各種技術 2. 理学療法とリハビリテーション 3. 理学療法と障害 4. 理学療法士および作業療法士法 5. 理学療法士の使命と倫理 6. 理学療法の対象と領域 7. 演習① 8. 中間試験および学習内容の振り返り 9. 理学療法士に求められる臨床思考 10. 理学療法の実際の流れ 11. 理学療法(士)教育について 12. 理学療法研究とは 13. 理学療法と管理運営 14. 演習② 15. 定期試験および学習内容の振り返り				
成績評価	・講義毎の理解度チェックや自宅学習課題を行い、科目成績の一部として反映させる。 ・科目成績は、講義毎の理解度チェックや自宅学習課題(20 点)、中間試験(40 点)と定期試験(40 点)の合計 100 点満点で評価する。 ・成績基準は、S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・成績評価は合計点が 60 点以上を合格として科目単位を付与し、60 点未満では単位付与は行わない。 ・受講状況(受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等)も成績評価に考慮することがある。				
教科書	・シンプル理学療法学シリーズ　理学療法概論テキスト(南江堂)				
参考図書	・学生のためのリハビリテーション医学概論(医歯薬出版株式会社)				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	理学療法評価学総論(040)				
担当者	佐藤圭子(実務経験者) 理学療法士	急性期から回復期の医療機関で様々な疾患の理学療法に携わっており、検査測定の臨床経験を有する。			
授業概要	・理学療法領域で使用される、基本的な評価方法を学ぶ。同時に各評価法の意義や目的を習得する。				
到達目標	・各種検査測定の目的など必要性を理解する。 ・理学療法プロセスにおける評価の意義と目的を理解する。				
授業計画	1. 理学療法評価の意義と目的 2. 理学療法評価過程について 3. 理学療法評価の種類と進め方 4. 評価の記録と情報管理 5. 医療面接と情報収集① 6. 意識障害・全身状態の評価 7. バイタルチェックの実際 8. 意欲・自己効力感の評価 9. 姿勢・形態測定 10. 関節可動域測定 11. 筋力検査 12. 痛みの評価 13. QOL 評価 14. その他・まとめ 15. 定期試験				
成績評価	・成績評定は確認テストや自宅課題などの日々の学習成果、および定期試験の合計を 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。なお、授業への参加状況や取り組み姿勢等も成績評価に考慮する場合がある。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・臨床評価ガイド(医学書院)				
参考図書	・理学療法評価学　テキスト(南江堂) ・リハビリテーション基礎評価学(羊土社) ・その他、配布資料				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法(演習)
科目名	医療統計学(041)				
担当者	武田知樹				
授業概要	保健・医療・福祉の分野で活躍する理学療法士にとって、臨床上の問題解明や将来の対策を立てようとする場合に、統計学的な知識は不可欠である。この科目では、基本的な統計手法の修得と活用方法について演習を交えながら学んでいく。				
到達目標	保健・医療・福祉の現場で利用することの多い基本的な統計手法について、パソコン等を用いた実用方法を習得する。				
授業計画	1. 序論(保健・医療・福祉分野における統計の役割) 2. 統計に関する基本的事項と Microsoft office Excel の基本的操作方法 3. 統計ソフト(Excel Statistical Program File ystat2008.xls)の使用方法 4. 2 群間の比較検定(t-検定) 5. 2 群間の比較検定(ウイルコクソン順位和検定, マンホイットニー順位和検定, 他) 6. 演習① 7. 中間試験および学習内容の振り返り 8. 多群間の比較検定(分散分析) 9. 多群間の比較検定(クリスカルウオリス順位検定, フリードマン検定) 10. クロス検定(2×2 カイ二乗検定, イエーツ補正 2×2 カイ二乗検定, フィッシャー直接確率試験, m×n カイ二乗検定)演習② 11. 相関(ピアソン積率相関係数, スピアマン順位相関係数, ケンドール順位相関係数) 12. 回帰分析 13. 演習 ② 14. 総合演習(検定からグラフ作成まで) 15. 定期試験および学習内容の振り返り				
成績評価	・講義毎の理解度チェックや自宅学習課題を行い、科目成績の一部として反映させる。 ・科目成績は、講義毎の理解度チェックや自宅学習課題(20 点)、中間試験(40 点)と定期試験(40 点)の合計 100 点満点で評価する。 ・成績基準は、S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・成績評価は合計点が 60 点以上を合格として科目単位を付与し、60 点未満では単位付与は行わない。 ・受講態度(受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等)も成績評価に考慮することがある。				
教科書	・コメディカルのための論文が読めるようになる統計学教本(増補版)				
参考図書	・なるほど統計学とおどろき Excel 統計処理(医学図書出版株式会社)および添付ソフト(Excel Statistical Program File ystat2018.xls)・				
その他	・パーソナルコンピューター(Windows OS)やアプリケーションソフト(Microsoft office Excel)の基本的操作を修得しておくことが好ましい。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	3 年前後期	専門分野	■必修　□選択	4 単位 60 時間	授業方法(講義、演習、他)
科目名	卒業研究(042)				
担当者	専任教員および学外講師				
授業概要	理学療法領域における研究の種類、目的、意義を理解し、理学療法関連論文を検索・熟読することで、理学療法学の現状を概観し、研究手法や結果分析方法、考察の視点を修得する。				
到達目標	卒後も理学療法士として研究発表と論文作成など取り組め、また科学的な視点を持ち合わせること				
授業計画	1. 研究法(総論) 2. 研究法(各論　研究デザイン、他) 3. 研究法(各論　感度、特異度、他) 4. 研究計画と研究倫理 5. EBM とガイドライン 6. 文献検索方法と実践 7. 文献抄読(1) 8. 文献抄読(2) 9. 文献抄読(3) 10. 文献抄読(4) 11. 研究計画立案(1) 12. 研究計画立案(2) 13. 研究計画立案(3) 14. 研究計画立案(4) 15. 研究計画立案(5) 16. 中間報告会 17. 研究で用いられる統計手法(1) 18. 研究で用いられる統計手法(2) 19. データ収集及び分析(1) 20. データ収集及び分析(2) 21. 効果的なプレゼンテーションの方法(1) 22. 効果的なプレゼンテーションの方法(2) 23. 予演会 24. 卒業研究発表会 25. 卒業研究発表会 26. 学術論文における研究倫理と査読 27. 学術論文の書き方 28. 論文執筆(1) 29. 論文執筆(2) 30. 論文執筆(3)				
成績評価	・成績評価はレポート形式(100 点満点)にて行う ・卒業研究発表を完成させるまでの過程、発表審査と論文審査を評価する。 ・成績基準は、S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・成績評価は合計点が 60 点以上を合格として科目単位を付与し、60 点未満では単位付与は行わない。 ・受講態度(受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等)も成績評価に考慮することがある。				
教科書	・必要に応じて、適宜、資料配布を行う。				
参考図書	・				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	3 年後期	専門分野	■必修　□選択	1単位 30 時間	授業方法（講義）
科目名	理学療法管理学（043）				
担当者	武田　知樹	キャリアマネージメントに関連する学術研究活動や学生に対する就職相談の経験を有する。			
	梅木駿太（実務経験者）	老人保健施設の事務長として、組織管理・運営に関する経験を有する。			
	藤原愛作（実務経験者）	医療機関において教育管理の責任者として、組織管理・運営に関する経験を有する。			
	河野礼治（実務経験者）	医療機関リハビリ部門の管理者、また、リハビリテーション専門職団体協議会の会長として、組織管理・運営に関する経験を有する。			
	分藤英樹	公社）大分県理学療法士協会の生涯学習担当者として、理学療法士の卒後教育に関する経験を有する。			
授業概要	近年、理学療法士が就労している医療福祉領域に目を向けると、医療・介護サービスの連携や病院機能の分化に伴い、新たな組織管理や運営に関するスキルを求められている。卒後、医療機関や福祉施設等の組織に所属して理学療法士として働いていく上で必要な知識を網羅して講義する。				
到達目標	本科目では、チーム医療の効果科的な実践として、組織管理や運営にかかわる知見やその実践方法を修得することである。				
授業計画	1　総論（武田） 2　権利擁護と職業倫理（武田） 3　病院の分類と組織（武田） 4　専門職とチームケア（武田） 5　社会保障の仕組み、医療保険制度、介護保険制度（梅木） 6　診療報酬と収益構造（梅木） 7　業務管理、情報管理について（藤原） 8　リスク管理、感染症管理、教育管理について（藤原） 9　保健・医療・介護・福祉の連携（河野） 10　理学療法士の政治・政策への関与（河野） 11　理学療法士の卒後教育、生涯学習システムについて①（分藤） 12　理学療法士の卒後教育、生涯学習システムについて②（分藤） 13　キャリアマネージメント①（武田） 14　キャリアマネージメント②（武田） 15　レポート試験および学習内容の振り返り				
成績評価	・成績評価はレポート形式（100 点満点）にて行う ・成績基準は、S：90 点以上、A：80 点以上、B：70 点以上、C：60 点以上、D：60 点未満とする。 ・成績評価は合計点が 60 点以上を合格として科目単位を付与し、60 点未満では単位付与は行わない。 ・受講態度（受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等）も成績評価に考慮することがある。				
教科書	・理学療法管理学　15 レクチャーシリーズ　理学療法テキスト（中山書店）				
参考図書					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	骨関節評価学Ⅰ(044)				
担当者	大野智之(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として、急性期リハビリテーションでの勤務経験があり、骨関節・内部疾患患者の形態測定・関節可動域測定の経験を有する。			
	分藤英樹(実務経験者) 理学療法士	急性期病院で整形外科疾患患者の理学療法の経歴を持つ。			
授業概要	この科目では、理学療法の代表的機能評価項目である形態測定と関節可動域測定について学習する。授業内容は実習を中心とし、測定の意義や実際の測定方法、評価結果の解釈について学ぶ。				
到達目標	1)形態測定及び関節可動域検査について、測定の意義を説明することができる。 2)関節可動域検査においては、基本軸及び移動軸・参考可動域・代償動作等の基本事項について理解する。 3)健常者を対象とした形態測定および可動域測定を実施することができる。				
授業計画	1. 形態測定(四肢長や周径)の意義と具体的方法 2. ランドマーク触診方法 3. 四肢長や周径の測定(上肢) 4. 四肢長や周径の測定(下肢) 5. 形態測定(四肢長)測定値の解釈と分析 6. 関節可動域測定の留意点と具体的方法 7. 関節可動域の測定(上肢①) 8. 関節可動域の測定(上肢②) 9. 関節可動域の測定(上肢③) 10. 関節可動域の測定(下肢①) 11. 関節可動域の測定(下肢②) 12. 関節可動域の測定(下肢③) 13. 関節可動域の測定(頚部および体幹①) 14. 関節可動域の測定(頚部および体幹②) 15. 定期試験(筆記試験・実技試験)				
成績評価	・定期試験(筆記試験にて 60 点、実技試験にて 40 点、合計 100 点とする)にて評定する。両者の合計 60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する。				
教科書	PT・OT のための測定評価 DVDseries1「ROM 測定」(三輪書店) PT・OT のための測定評価 DVDseries2「形態測定・反射検査」(三輪書店)				
参考図書					
その他	骨格や関節の構造や 2 関節筋の起始停止等の解剖学的知識を事前に確認しておくこと。 骨突出部(ランドマーク)を触診できるように各自予習しておくこと。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	骨関節評価学Ⅱ(045)				
担当者	大野智之(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として整形外科クリニック、総合病院での勤務経験があり、様々な運動器疾患に対する理学療法経験を有している。			
授業概要	本科目では、整形外科疾患で行われることの多い整形外科的検査と運動機能の評価項目について理論的背景を学ぶとともに、検査・評価を実際に行う。				
到達目標	・整形外科的検査や骨関節に係る評価について、解剖学的知識・疾患的知識を用い、その意義を説明することができる。 ・健常者を対象とした検査、測定を実施することができる。				
授業計画	1. 関節可動域測定値の解釈と分析①:骨関節評価学Ⅰの振り返り 2. 関節可動域測定値の解釈と分析②:整形外科的検査との関連 3. 整形外科的検査の意義と目的 4. 整形外科的検査の実際:上肢① 5. 整形外科的検査の実際:上肢② 6. 整形外科的検査の実際:上肢③ 7. 整形外科的検査の実際:下肢① 8. 整形外科的検査の実際:下肢② 9. 整形外科的検査の実際:下肢③ 10. 整形外科的検査の実際:頸部・体幹① 11. 整形外科的検査の実際:頸部・体幹② 12. 骨関節疾患に係るその他の評価① 13. 骨関節疾患に係るその他の評価② 14. 骨関節疾患に係るその他の評価③ 15. 定期試験および学習内容の振り返り				
成績評価	・講義毎の理解度チェックや自宅学習課題を行い、科目成績の一部として反映させる。 ・科目成績は、講義毎の理解度チェックや自宅学習課題(10 点)、筆記試験(70 点)、実技試験(20 点)の合計 100 点満点で評価する。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・受講態度(受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等)も成績評価に考慮することがある。				
教科書	・PT・OT のための測定評価 DVDseries6「整形外科的検査」(三輪書店)				
参考図書					
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	筋機能評価学Ⅰ(046)				
担当者	岡部陽介(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として急性期～回復期病棟に勤務し、運動器疾患患者や脳血管疾患患者に対して筋機能評価を実施した経験がある。			
授業概要	本科目は筋力の徒手評価について、新・徒手筋力検査法 第 10 版(Daniels and Worthingham 法)に基づいて学習を進める。1 年次の解剖学で扱う、筋の名称や走行、作用を復習しながら、体表での筋の触診も行っていく。講義形態は実技を主体に実施する。				
到達目標	1)筋の名称や走行、作用などを理解できる。 2)マニュアルに基づき、検査を実施し筋力を判定できる。				
授業計画	1. 講義の進め方について、徒手筋力検査法総論 2. 体幹①…伸展・骨盤挙上 3. 体幹②…屈曲・回旋 4. 肩甲骨①…外転と上方回旋・挙上・内転 5. 肩甲骨②…下制と内転・内転と下方回旋・下制 6. 肩関節①…屈曲・伸展・外転・水平外転 7. 肩関節②…水平内転・外旋・内旋 8. 肘関節および前腕…屈曲・伸展・回内・回外 10. 手関節…屈曲・伸展 11. 股関節①…屈曲・伸展・外転 12. 股関節②…屈曲位からの外転・内転・内旋・外旋 13. 膝および足関節…屈曲・伸展・背屈 14. 足関節…底屈・外返し・内がえし 15. 定期試験(筆記試験、実技試験)				
成績評価	・成績は合計点(筆記 80 点、実技 20 点、計 100 点)で評価し、合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	新・徒手筋力検査法:協同医書出版				
参考図書	機能障害科学入門:神陵文庫				
その他	付属の動画教材での予習を推奨する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	筋機能評価学Ⅱ(047)				
担当者	岡部陽介(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として、急性期～回復期病棟における勤務経験がある。運動器疾患、脳血管疾患患者の筋機能評価を実施した経験がある。			
	分藤英樹(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として急性期病院に勤務し、筋機能評価を実施した経験がある。			
授業概要	本科目は徒手筋力検査法について、1 年次に使用した新・徒手筋力検査法 第 10 版の内容を深めるように学習を進める。また、機器を使用した筋機能評価についても演習を行う。				
授業計画	1. MMT 別法 他(岡部) 2. MMT 手指(岡部) 3. MMT 顔面(岡部) 4. 筋機能と生理①(分藤) 5. 筋機能と生理②(分藤) 6. 筋機能評価機器総論(岡部) 7. 筋機能評価機器演習(HHD)(岡部) 8. 筋機能評価機器演習(COMBIT)(岡部) 9. 筋機能評価機器演習(筋電図)(分藤) 10. 筋機能評価機器 総合演習①(岡部) 11. 筋機能評価機器 総合演習②(岡部) 12. 筋機能評価機器 総合演習③(分藤) 13. 筋機能評価機器 総合演習④(分藤) 14. 筋機能評価機器 総合演習⑤(分藤) 15. 定期試験				
到達目標	・筋の名称や走行、作用などを理解できる。 ・筋機能評価機器を使用できる。 ・徒手検査法の代償動作や別法についてより詳細に理解できる。				
成績評価	・講義毎の理解度チェックや自宅学習課題を行い、科目成績の一部として反映させる。 ・科目成績は、講義毎の理解度チェックや自宅学習課題(10 点)、筆記試験(70 点)、演習(20 点)の合計 100 点満点で評価する。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・受講態度(受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等)も成績評価に考慮することがある。				
教科書	新・徒手筋力検査法:協同医書出版 機能障害科学入門:神陵文庫				
参考図書					
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	神経評価学Ⅰ(048)				
担当者	大嶋　崇(実務経験者) 理学療法士	回復期リハビリテーション病棟、生活期施設にて脳血管障害を始め、神経難病の方のリハビリテーションに従事した。			
授業概要	この科目は理学療法評価の中から、理学療法士として多く担当することのなる脳血管障害の患者を中心に評価の技術を習得するための科目である。神経評価学Ⅱを 2 年前期に行う。				
到達目標	神経評価を学んでいくにあたり、脳の機能解剖を復習する。この講義の中では脳の機能と障害を同時に学んでいく。また評価の意義・注意点・手順について学び、検査方法を習得する。実技を中心とした講義とし、健常者同士で検査が行えることを目的とする。(他講義の履修状況に合わせ、講義内容を検討する)				
授業計画	1. 神経評価学総論(脳の解剖の復習) 2. 神経評価学総論(脳の解剖の復習) 3. 反射とは 4. 反射検査＜表在・病的・クローヌス＞(実技) 5. 反射検査＜表在・病的・クローヌス＞(実技) 6. 感覚とは 7. 感覚検査の実際(実技) 8. 感覚検査の実際(実技) 9. 協調運動機能とは 10. 協調運動機能検査の実際(実技) 11. 協調運動機能検査の実際(実技) 12. 脳神経について 13. 脳神経検査の実際(実技) 14. 脳神経検査の実際(実技) 15. 定期試験				
成績評価	・成績評価は期末試験(90 点)と実技試験(10 点)を実施し、合計点(100 点)で評価する。 ・60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学(羊土社) ・DVD シリーズ PT/OT のための測定評価　片麻痺機能検査・協調性検査 ・DVD シリーズ PT/OT のための測定評価　形態測定・感覚検査・反射検査　(三輪書店) ・ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)				
参考図書	・適宜、資料を配付する				
その他	実技の際は、感染予防のためマスクを着用の上、手指消毒を徹底し臨むこと。また、実習着を着用すること。 私語は飛沫防止のため、厳禁とする。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	神経評価学Ⅱ(049)				
担当者	大嶋　崇(実務経験者) 理学療法士	亜急性期、回復期、生活期の理学療法を病院、施設で経験し多くの脳血管障害患者、神経難病患者を担当した経験を持つ。			
授業概要	神経評価を学んでいくにあたり、特に脳の機能解剖を復習する。この講義の中では脳の機能と障害を同時に学んでいく。また評価の意義・注意点・手順について学び、検査方法を習得する。				
到達目標	実技を中心とした講義とし、健常者同士で検査が行えることを目的とする。				
授業計画	1. 片麻痺機能検査とは 2. 片麻痺機能検査＜Brunnstrome test＞ 3. 片麻痺機能検査＜12 段階片麻痺機能検査、NIHSS 他＞ 4. 片麻痺機能検査＜SIAS＞ 5. 片麻痺機能検査＜Fugl-Meyer＞ 6. 筋緊張とは 7. 筋緊張検査の実際(実技) 8. 姿勢反射・反応 9. 姿勢反射・反応の実際(実技) 10. 姿勢反射・反応の実際(実技) 11. バランス検査 12. バランス検査の実際(実技) 13. バランス検査の実際(実技) 14. 演習 15. 演習 ※習った評価方法より患者のレポートを作成する				
成績評価	・成績評価は平常点(30 点;各講義の理解度チェック)、筆記試験(60 点)、実技試験(10 点)の合計 100 点で評価する。 ・成績評価は 60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・成績評価は合計点が 60 点以上を合格として科目単位を付与し、60 点未満では単位付与は行わない。 ・受講態度(居眠り等)も成績評価に考慮することがある。				
教科書	・理学療法基礎評価学(医歯薬出版株式会社) ・ベッドサイドの神経の診かた　南山堂 ・DVD シリーズ PT/OT のための測定評価　片麻痺機能検査・協調性検査 ・DVD シリーズ PT/OT のための測定評価　形態測定・感覚検査・反射検査 ・DVD シリーズ PT/OT のための測定評価　バランス評価　(三輪書店)				
参考図書					
その他	実技の際は、実習服を着用する。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	呼吸循環評価学(050)				
担当者	分藤英樹(実務経験者) 理学療法士	急性期病院にて呼吸器疾患や循環器疾患、術後 ICU の患者に対する理学療法の経験がある。また、3 学会合同呼吸療法認定士・心臓リハビリテーション指導士、認定理学療法士(循環器)の資格を取得している。			
授業概要	寿命の延伸に伴い内部障害の疾患を併存する患者が増加しており、内部障害患者に対する理学療法が必須の時代となっている。この科目では主に循環器疾患・呼吸器疾患の評価について学ぶ。				
到達目標	・呼吸・循環器疾患に対する各評価の目的を説明できる ・各評価の解釈について理解し、説明することができる ・各評価項目を、測定・実施することができる				
授業計画	1. 呼吸循環器疾患の生理学(復習) 2. 呼吸循環器疾患の生理学(復習) 3. 心電図の解釈と読影方法 4. 心電図の解釈と読影方法 5. 循環器疾患の評価(NYHA 心機能分類、運動負荷試験) 6. 循環器疾患の評価(NYHA 心機能分類、運動負荷試験) 7. 実技(運動耐容能評価＝フィールド歩行試験) 8. 呼吸器疾患の評価(呼吸困難感評価，運動耐用能評価等) 9. 肺機能検査(検査方法，データの解釈) 10. 呼吸器疾患の評価(呼吸困難感評価，運動耐用能評価等) 11. フィジカル・イグザミネーション(視診・触診・聴診・打診) 12. 胸部レントゲン写真の読影方法 13. フィジカル・イグザミネーション(視診・触診・聴診・打診) 14. 疾患を通した学習内容の振り返り 15. 定期試験及び学習内容の振り返り				
成績評価	・成績評価は課題(10 点)、受講状況(10 点)、確認試験(30 点)、定期試験(50 点)にて行う。 ・課題は事前学習、レポート作成を適宜提示する。 ・受講状況(受講中の居眠り、教員の指示の遵守、能動的な授業への関わり)も成績評定に考慮する。 ・確認試験は事前に範囲を提示し、授業中に行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とし科目単位を付与する。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。				
教科書	・内部障害理学療法学テキスト				
参考図書	・リハビリテーションにおける評価法ハンドブック(医歯薬出版株式会社)				
その他	・実習では聴診器を用いる				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	動作分析学(051)				
担当者	大野智之				
授業概要	動作分析は理学療法士にとって重要かつ基本的な技能であり、患者の有する問題を明確にし、効果的な理学療法プログラムを作成するために行われる一連の過程である。 本科目では、その一連の思考過程を学ぶとともに、健常者や各疾患特有の基本動作を実践的に分析・展開することで動作分析を行う際の視点を学ぶ。				
到達目標	1)理学療法における動作分析の意義を説明できる 2)健常者における正常な基本動作を観察・分析し説明することができる 3)代表的疾患の特徴的動作を観察・分析し説明することができる				
授業計画	1. 正常な基本動作の観察と分析 2. 動作の構造と分析・動作分析の実際 3. 動作分析の目的・対象・方法・解釈と実際の流れ. 課題テーマ発表 4. 健常者の動作分析 5. 健常者の動作分析 6. 課題に対する発表:6 グループ 7. 中間試験 8. 片麻痺の動作分析 9. 片麻痺の動作分析 10. パーキンソン症状の動作分析 11. パーキンソン症状の動作分析 12. 脊髄損傷の動作分析 13. 脊髄損傷の動作分析 14. 下肢荷重関節障害の動作分析 15. 定期試験				
成績評価	・課題発表を 20 点, 中間試験を 40 点, 定期試験を 40 点とし合計 100 点で評価する. 合計 60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する。				
教科書	・標準理学療法学　臨床動作分析(医学書院)				
参考図書	プリント, 動画, 模型等を使用する. その他中枢神経障害に関するテキストや運動学に関するテキスト				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法(演習)
科目名	疾患別評価学演習Ⅰ(052)				
担当者	武田知樹・佐藤圭子・大嶋崇・大野智之・岡部陽介・分藤英樹:(実務経験者) 担当者それぞれが医療機関において、5 年以上の理学療法士経験を有する				
授業概要	各専任教員が担当する 6 グループに分かれ、仮想症例を通して基本的な理学療法評価について演習形式にて学習する。また、医療人を目指す者としての身だしなみ・言葉遣いなどの基本的態度・学習姿勢に対する認識を深める。				
到達目標	【一般目標】 演習を通して、対象者の理解に必要な基本的臨床技能を習得する 【行動目標】 認知領域　1)適切な情報・評価項目を挙げ、目的を述べられる 2)得られた知識を整理し、記録できる 3)安全管理について理解する 精神運動領域　1)対象者にオリエンテーション・情報収集ができる 2)検査測定を適切に実施できる 3)患者に関連する臨床技能を身につける 情意領域　1)対象者との適切な応答の仕方を身につける(言葉遣いや態度) 2)グループメンバーと協同的かつ自律的に演習を進める				
授業計画	・6 グループに分かれて、それぞれのグループ内でロールプレイ形式にて演習を実施する。 ・運動器・脳血管疾患の仮想症例に対して、設定された課題に取り組む。 ・講義は全部で 8 コマとし、運動器・脳血管疾患それぞれ 4 コマの演習を行う。				
成績評価	・成績評価は演習 60 点、客観的臨床能力試験 Objective Structured Clinical Examination(OSCE)40 点にて行う ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・PTOT のための OSCE(金原出版株式会社)				
参考図書					
その他	・ロールプレイにて演習を行うため、事前に十分な準備をして講義に臨むこと				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法(演習)
科目名	疾患別評価学演習Ⅱ(053)				
担当者	武田知樹・佐藤圭子・大嶋崇・大野智之・岡部陽介・分藤英樹 (実務経験者):理学療法士 担当者それぞれが医療機関において 5 年以上の理学療法士経験を有する				
授業概要	各専任教員が担当する 6 グループに分かれ、仮想症例を通して基本的な理学療法評価について演習形式にて学習する。				
到達目標	【一般目標】 一連の理学療法評価を経験し、評価実習Ⅱに向けて理学療法評価を実践する能力を習得する。 【行動目標】 1)与えられた課題を事前に予習・復習し、適切に実施することが出来る 2)得られた知識を整理し、記録できる 3)得られた結果から障害像を把握し、問題点を同定できる 4)対象者に対し適切な言葉でオリエンテーションが出来る 5)評価方法の基本を押さえ、実施できる 6)医療人として適切な態度・姿勢を身につける 7)グループ内で他者へ指摘・進言することが出来る 8)疾患別評価学演習Ⅱに向けてグループで取り組み、事前に十分練習を行うことが確認できる				
授業計画	・症例毎に設定した課題に対し取り組む。 ・ロールプレイにて演習を行い、その後，グループメンバーまたは教員からのフィードバックを受ける. ・毎時間の記録(知識の整理・感想・自己の問題点や課題・改善策・演習をして気づいた点・自己学習など)を A4 ノートに記載し，担当教員の指導のもと提出する.				
成績評価	・成績評価は、演習 60 点、客観的臨床能力試験 Objective Structured Clinical Examination(OSCE)40 点、合計 100 点とし、合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・PTOT のための OSCE(金原出版株式会社)				
参考図書					
その他	・ロールプレイにて演習を行うため、事前に十分な準備をして講義に臨むこと				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	運動療法学(054)				
担当者	武田　知樹 (実務経験者)	理学療法士として、リハビリテーション病院において脳血管疾患患者に対する自宅復帰等に向けたリハビリテーションの経験を持つ。			
	大嶋　崇 (実務経験者)	亜急性期、回復期、生活期、在宅(通所リハ、通所介護、訪問)の理学療法を病院、施設で経験した経験を持つ。			
	佐藤　圭子 (実務経験者)	急性期から回復期の医療機関で様々な疾患の理学療法に携わっていた経験を有している。			
	大野　智之 (実務経験者)	理学療法士として整形外科クリニック、総合病院での勤務経験があり、様々な運動器疾患に対する理学療法経験を有している。			
	岡部　陽介 (実務経験者)	理学療法士として、急性期～回復期病棟において様々な疾患の理学療法に携わった経験を有している。			
	分藤　英樹 (実務経験者)	急性期病院にて呼吸器疾患や循環器疾患、術後 ICU の患者に対する理学療法の経験がある。			
授業概要	運動療法とは運動を利用した治療の方法であり、理学療法の中でも中心的な位置を占める。その活用の場はあらゆる疾患・障害といった医療の分野に限らず健康増進・予防に関する分野まで幅広く拡がっている。また複数の合併症を伴っている対象者など障害像も複雑化している。 そこで各々の疾患に対しての基礎知識に基づく評価と治療方針の立案、運動療法について学ぶ科目とする。				
到達目標	1)運動療法の定義を理解できる。 2)運動療法の目的と対象を理解することができる。 3)各疾患に対しての基礎知識を習得することができる。 4)各疾患に対しての評価及び治療方針に関して理解できる。 5)各疾患の運動療法について習得することができる。				
授業計画	1. 運動療法学総論・運動療法におけるリスク管理(大嶋) 2. 筋機能と運動療法(岡部)　3. 関節可動性と運動療法(大野) 4. バランス機能と運動療法(佐藤)　5. 呼吸機能と運動療法(コンディショニング含む)(大嶋) 6. 循環機能と運動療法(コンディショニング含む)(岡部) 7. 代謝機能と運動療法(コンディショニング含む)(分藤) 8. 協調性機能と運動療法(武田)　9. 中枢神経機能と運動療法(感覚障害への運動療法含む)(武田) 10. 末梢神経機能と運動療法(佐藤)　11. 加齢による運動機能変化と運動療法(分藤) 12. がん患者の運動療法(大野)　13. 基本動作と運動療法(大野) 14. 運動学習と運動療法(分藤)　15. 単位認定試験				
成績評価	・筆記試験 100 点満点で成績評価行い、60 点以上を合格とします。 ・平常点 30 点(教員 6 名×5 点)、筆記試験 70 点とする。				
教科書	・理学療法学テキスト　運動療法学(MEDICAL VIEW)				
参考図書	・15 レクチャーシリーズ　運動療法テキスト　運動療法学(中山書店)				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	運動療法学実習(055)				
担当者	武田　知樹 (実務経験者)	理学療法士として、リハビリテーション病院において脳血管疾患患者に対する自宅復帰等に向けたリハビリテーションの経験を持つ。			
	大嶋　崇 (実務経験者)	亜急性期、回復期、生活期、在宅(通所リハ、通所介護、訪問)の理学療法を病院、施設で経験した経験を持つ。			
	佐藤　圭子 (実務経験者)	急性期から回復期の医療機関で様々な疾患の理学療法に携わっていた経験を有している。			
	大野　智之 (実務経験者)	理学療法士として整形外科クリニック、総合病院での勤務経験があり、様々な運動器疾患に対する理学療法経験を有している。			
	岡部　陽介 (実務経験者)	理学療法士として、急性期～回復期病棟において様々な疾患の理学療法に携わった経験を有している。			
	分藤　英樹 (実務経験者)	急性期病院にて呼吸器疾患や循環器疾患、術後 ICU の患者に対する理学療法の経験を有している。			
授業概要	運動療法学で学んだ各々の疾患に対しての基礎知識に基づく評価と治療方針の立案、運動療法について実技を中心に講義を行う。				
到達目標	6)各疾患に対しての基礎知識を習得し、運動療法を実践できる。 7)各疾患に対しての評価及び治療方針に関して理解でき、評価・治療を実践できる。				
授業計画	1. 運動療法学総論・運動療法におけるリスク管理(中止基準、感染管理・予防、ルートの管理;カテーテル・ドレーン等、転倒・転落);実技(大嶋) 2. 筋機能と運動療法;実技(岡部)　3. 関節可動性と運動療法;実技(大野) 4. バランス機能と運動療法;実技(佐藤)　5. 呼吸機能と運動療法(コンディショニング含む);実技(大嶋) 6. 循環機能と運動療法(コンディショニング含む);実技(岡部) 7. 代謝機能と運動療法(コンディショニング含む);実技(分藤) 8. 協調性機能と運動療法;実技(武田) 9. 中枢神経機能と運動療法(感覚障害への運動療法含む);実技(武田) 10. 末梢神経機能と運動療法;実技(佐藤)　11. 加齢による運動機能変化と運動療法;実技(分藤) 12. がん患者の運動療法;実技(大野)　13. 基本動作と運動療法;実技(大野) 14. 運動学習と運動療法;実技(分藤)　15. 単位認定試験				
成績評価	・実技試験 100 点満点で成績評価を行い、60 点以上を合格とします。 ・授業計画 1～14 の項目においてそれぞれ 5 点×14 項目(60 点)平常点、実技試験 40 点で評価します。				
教科書	・Crosslink　理学療法テキスト　運動療法学(MEDICAL VIEW)				
参考図書					
その他	・実技や演習には実習着もしくは T シャツ等上下肢露出しやすい服装が必要なこともあります。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	骨関節理学療法学(056)				
担当者	佐藤圭子(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として急性期整形外科病院での勤務経験があり、骨折や関節症等、様々な運動器疾患の保存理学療法から術後理学療法の経験を有している。			
授業概要	本講義では、整形外科疾患の対象となる、主な運動器系疾患の病態、治療方針(観血的および保存的)を理解し、各種疾患に必要な理学療法評価から基本的な理学療法アプローチの立案までのプロセスを学ぶ。				
到達目標	本講義は運動器系疾病や障害に対する理解を深め、一連の理学療法プロセスを想起できるようになることを目標とする。				
授業計画	1. 骨関節疾患総論 2. 骨折の理学療法① 3. 骨折の理学療法② 4. 変形性膝関節症の理学療法① 5. 変形性膝関節症の理学療法② 6. 膝靭帯損傷の理学療法① 7. 膝靭帯損傷の理学療法② 8. 脊椎疾患の理学療法① 9. 脊椎疾患の理学療法② 10. 肩関節疾患の理学療法① 11. 肩関節疾患の理学療法② 12. 関節リウマチの理学療法① 13. 関節リウマチの理学療法② 14. 理学療法の実際 15. 定期試験				
成績評価	・筆記試験 100 点満点で成績評価を行い、60 点以上を合格とする。 ・60 点未満の場合は再試験を受けることができる。 ・再試験は、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する。 ・成績基準は、S90 点以上、A80 点以上、B70 点以上、C60 点以上、D60 点未満とする。				
教科書	・運動器疾患の理学療法 （神陵文庫）				
参考図書	・講義用プリント ・標準整形外科学 （医学書院）				
その他	・1 年次の解剖学や 2 年次の整形外科学の知識も必要となる科目である。また、運動器理学療法学演習にも関連する科目である。 ・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、講義計画を変更しオンライン講義とすることもある。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	骨関節理学療法学実習(057)				
担当者	佐藤圭子(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として急性期整形外科病院での勤務経験があり、骨折や関節症等、様々な運動器疾患の保存理学療法から術後理学療法の経験を有している。			
授業概要	この講義では運動器疾患の仮想症例を通して、理学療法評価から理学療法プログラムの実施に至る理学療法プロセスの一連の流れをグループ演習形式にて学習する。				
到達目標	骨関節理学療法学で得た運動器系疾病や障害に対する知識をもとに、仮想症例に対して一連の理学療法プロセスを考えることができるようになることを目標とする。				
授業計画	1. 大腿骨頚部骨折①:模擬症例演習　全体像の把握　検査測定について 2. 大腿骨頚部骨折②:模擬症例演習　理学療法(実技) 3. 下腿骨骨折①:模擬症例演習　全体像の把握　検査測定について 4. 下腿骨骨折②:模擬症例演習　理学療法(実技) 5. TKA①:模擬症例演習　全体像の把握　検査測定について 6. TKA②:模擬症例演習　理学療法(実技) 7. 腰椎椎間板ヘルニア①:模擬症例演習　全体像の把握　検査測定について 8. 腰椎椎間板ヘルニア②:模擬症例演習　理学療法(実技) 9. 膝前十字靭帯損傷①:模擬症例演習　全体像の把握　検査測定について 10. 膝前十字靭帯損傷②:模擬症例演習　理学療法(実技) 11. 関節リウマチ①:模擬症例演習　全体像の把握　検査測定について 12. 関節リウマチ②:模擬症例演習　理学療法(実技) 13. 腱板損傷①:模擬症例演習　全体像の把握　全体像の把握　検査測定について 14. 腱板損傷②:模擬症例演習　理学療法(実技) 15. 定期試験(レポート)				
成績評価	・成績評価は演習の取り組み状況(30 点)、発表(30 点)、レポート(40 点)の合計 100 点にて評定し、合計 60 点以上を合格とする ・60 点未満の場合は再試験を受けることができる(再試験はレポートにて) ・成績基準は、S90 点以上、A80 点以上、B70 点以上、C60 点以上、D60 点未満とする。				
教科書	・「運動器疾患の理学療法」:神陵文庫				
参考図書	・講義用プリント				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	神経理学療法学(058)				
担当者	武田知樹(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として、リハビリテーション病院において脳血管疾患患者に対する自宅復帰等に向けたリハビリテーションの経験を持つ。また、専門理学療法士(神経・生活環境支援)の資格を有している。			
授業概要	脳卒中の理学療法に関する基礎医学、理学療法評価・基本的治療について学ぶ。また、パーキンソン病および運動失調症の障害像について学習し、それらの疾患の運動障害に対する評価と運動療法の基本原理と治療体系について学習する。				
到達目標	脳卒中を代表とする種々の神経疾患の病態を理解した上で、各病期(急性期、回復期、維持期)における理学療法について理解する。				
授業計画	1 中枢神経障害の全容 2 片麻痺の原因，脳血管障害とは 3 脳血管障害の診断，急性期治療 4 片麻痺の評価 5 急性期理学療法の実際 6 片麻痺例における回復期理学療法の実際 7 片麻痺に特有な合併症と対策 8 中間試験および演習 9 運動失調に対する理学療法 10 パーキンソン病に対する理学療法 11 多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法 12 頭部外傷、低酸素脳症に対する理学療法 ① 13 その他の神経障害と理学療法 14 まとめ 15 定期試験				
成績評価	・成績評価は中間試験と期末試験を実施して、合計点(100 点)で評価する。 ・それぞれの試験出題範囲については変更することがあるので、その場合は別途指示する。 ・合計点が 60 点以上を合格とする。60 点未満の場合は再試験を受験することが可能である。 ・再試験は 60 点以上を合格として、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する。 ・成績基準は、S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。				
教科書	・シンプル理学療法学シリーズ　中枢神経障害理学療法学テキスト(南江堂) ・病気がみえる脳・神経　Vol.7(MEDIC MEDIA)				
参考図書	・適宜、講義資料を配布する。				
その他	・ゲストスピーカーとして外部講師による講義および実技を適宜行う予定である。 ・近隣地域のコロナ感染症の状況によっては、講義計画の変更や WEB 講義となることがある。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位　30 時間	授業方法(実習)
科目名	神経理学療法学実習(059)				
担当者	武田知樹(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として、リハビリテーション病院において脳血管疾患患者に対する自宅復帰等に向けたリハビリテーションの経験を持つ。また、専門理学療法士(神経・生活環境支援)の資格を有している。			
授業概要	本科目においては、脳卒中を代表とする種々の神経疾患の症例演習や実技発表を通して、理学療法における問題解決能力や臨床実践力の修得を目標としている。				
到達目標	臨床実習にて担当することの多い脳卒中を代表とする種々の神経疾患(模擬症例)に対して、基本的な理学療法の臨床実践能力の修得を目標としている。				
授業計画	1 脳卒中片麻痺(軽症例)　演習 2 脳卒中片麻痺(軽症例)　実技 3 脳卒中片麻痺(軽症例)　発表会 4 脳卒中片麻痺(重症例)　演習 5 脳卒中片麻痺(重症例)　実技 6 脳卒中片麻痺(重症例)　発表会 7 小脳失調症　演習 8 小脳失調症　実技 9 小脳失調症　発表会 10 パーキンソン病　演習 11 パーキンソン病　実技 12 パーキンソン病　発表会 13 総合演習① 14 総合演習② 15 発表会				
成績評価	・演習及び発表にて評価する(80 点)。 ・課題レポート(20 点)の評定も一部加味する。 ・100 点満点中、60 点以上を合格とする。				
教科書	・「シンプル理学療法学シリーズ　中枢神経障害理学療法学テキスト」(南江堂) ・「病気がみえる脳・神経　Vol.7」(MEDIC MEDIA)				
参考図書					
その他	外来講師による講義および実技を適宜行う予定である。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	小児発達理学療法学(060)				
担当者	廣瀬賢明(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として小児療育にかかわる施設に勤務し、脳性麻痺児等の理学療法に携わっている。認定理学法士(発達障害)の資格を取得している。			
	那須賢一(実務経験者) 理学療法士	小児療育の施設に勤務して理学療法を実施している。また、NICU での理学療法にも携わっている。認定理学療法士(発達障害)の資格を取得している。			
授業概要	運動発達についての発達理論、発達年齢、姿勢反射などの知識をもとに、小児疾患などの病態や障害などの特徴と理学療法の介入方法について学習する。				
到達目標	1. 小児リハビリテーションの基本的な考え方を理解する。また、その中で理学療法士の役割を理解する。 2. 小児特有の評価法や発達の分析方法について理解する。 3. 対象疾患の特徴と理学療法による介入方法を理解し、その基本的技術を習得する。				
授業計画	1. 小児リハビリテーション概論 2. 21 トリソミー 3. 低出生体重児 4. 痙直型脳性麻痺児の運動の特徴 5. 痙直型脳性麻痺児の治療、支援 6. 不随意運動型脳性麻痺児の特徴と治療 7. 脳性麻痺児ケーススタディ 8. 筋ジストロフィー 9. ペルテス病 10. 二分脊椎 11. 小児リハビリテーション評価法 12. 乳幼児の発達分析(1) 13. 乳幼児の発達分析(2) 14. 重症心身障害児(者)の特徴と治療 15. 定期試験				
成績評価	・成績評価は合計点(100 点)で評価し、合計点が 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・シンプル理学療法学シリーズ　小児理学療法学テキスト(南江堂)				
参考図書	・適宜、講義資料を配布する。				
その他	・1 年次の人間発達学や 2 年次の小児科学の知識を基に、身体障碍のある子どもたちへの治療に関連する科目である。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	循環代謝理学療法学(061)				
担当者	竹村　仁(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として地域中核病院に勤務。循環器疾患の患者を多く担当した経験を持つ。その経歴から心臓リハビリテーション指導士を取得している。			
授業概要	この科目では内部障害系について学ぶ。まt、学生自身自ら学ぶ機会を設けるために患者教育用のパンフレット作成をグループごとで行い、その成果を発表して評価する科目である。				
到達目標	内部障害系疾患は、骨･関節系障害，中枢神経系障害と異なり，内部障害の病態は外からは見えにくい．さらに同じ疾患であってもその病態は個々の症例で異なる．適切な理学療法を実施するためには，歩行練習や自転車エルゴメータを用いた画一的な運動療法に注目するよりも，むしろ個々の症例の病態を理解することが近道である．このような観点から，本科目では内部障害の病態理解に重点をおき，フィジカルアセスメント、運動療法、運動療法の継続に関して重要である患者数育，行動変容の考え方についても学習を行う．さらに，患者指導パンフレッド作成を通して学習した知識をより実践に近い形で確認することを目的とする．				
授業計画	1　なぜ今内部障害を学ぶのか 2　糖尿病の理解 3　糖尿病の運動療法の考え方 4　心電図の見方 5　心疾患について 6　心臓リハビリテーションの実際 7　心不全のリハビリテーション 8　閉塞性動脈硬化症のリハビリテーション 9　慢性腎不全と運動療法 10　がん患者の特徴 11　がん患者のリハビリテーションの実際 12　患者教育と行動変容プログラム 13　パンフレッド作成とプレゼンテーション演習 14　パンフレッド作成とプレゼンテーション演習 15　定期試験				
成績評価	･成績評価は筆記試験 80 点、パンフレット 20 点、合計点(100 点)で評価し、合計点が 60 点以上を合格。 ･講義中態度等も加味した評定を行い、60 点以上を合格とする。 ･成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ･再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	･病気がみえる　循環器疾患　(メディックメディア)･内部障害理学療法学テキスト(南江堂)				
参考図書	･適宜、資料を配付する。				
その他	･日本人の死亡原因の第 1 位のがん、第 2 位となる心疾患、その他代謝等を学ぶ臨床実習で重要な科目となる。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	呼吸理学療法学(062)				
担当者	大嶋　崇(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として呼吸器内科のある病院に勤務し、呼吸器疾患や神経難病の患者に対する呼吸理学療法の経験を持つ。また、3 学会合同呼吸療法認定士・認定理学療法士(呼吸)の資格を取得している。			
授業概要	臨床実習の中で重要な科目で呼吸器疾患だけにとどまらず、他の疾患にも適応できる評価やアプローチを学ぶ科目である。				
到達目標	①肺の構造・疾患、検査方法が理解できる ②呼吸器疾患患者の評価が行える ③疾患の管理方法が理解できる ④日常生活の工夫と息切れの管理方法の指導が行える ⑤呼吸器疾患患者に対して呼吸リハビリテーションが提供できる				
授業計画	1　呼吸リハビリテーション総論 2　代表的な呼吸器疾患 3　身体所見のとり方＜視診・触診・打診・聴診＞　※呼吸循環評価学復習 4　身体所見のとり方＜視診・触診・打診・聴診＞　※呼吸循環評価学復習 5　(実技)運動耐容能評価方法 6　(実技)運動処方 7　(実技)呼吸練習・リラクゼーション 8　(実技)呼吸練習・リラクゼーション 9　(実技)ADL 指導方法 10　(実技)呼吸介助法・排痰法 11　(実技)呼吸介助法・排痰法 12　(実技)呼吸介助法・排痰法 13　患者指導 14　薬物療法・在宅酸素療法 15　定期試験				
成績評価	・成績評価は合計点(100 点)で評価し、合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・病気が見える vol.4　呼吸器　(MEDIC MEDIA) ・呼吸理学療法標準手技　監修;千住秀明、眞渕　敏、宮川哲夫(医学書院)				
参考図書	・適宜、資料を配付する。				
その他	・実習の際は実習着を着用すること。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	スポーツ理学療法学(063)				
担当者	高司　博美(実務経験者) 理学療法士	整形外科に勤務し、スポーツリハビリテーションに携わっている。国体への帯同はじめ、高校生等のスポーツ傷害の理学療法に長く携わっている。			
	牧　健一郎(実務経験者) 理学療法士	整形外科に勤務し、スポーツリハビリテーションに携わっている。国体への帯同はじめ、高校生等のスポーツ傷害の理学療法に長く携わっている。			
	大島　渉(実務経験者) 理学療法士	整形外科クリニック勤務。院内で選手のメディカルリハビリテーションに携わっている。			
	森山　秀一(実務経験者) 理学療法士	整形外科クリニック勤務。サッカー、ラグビー、バレーなど国体帯同の経験あり。現在は高校バレーチームに専属で携わっている。			
	中村妃与子(実務経験者) 理学療法士	整形外科でスポーツリハビリテーションに携わっている。プロチームをはじめとして、国体、学生スポーツ分野などで理学療法士として活動している。			
	黒田　厚(実務経験者) 理学療法士	総合救急・急性期病院に勤務し、ジュニアテニス等の指導を行っている。また ICLS インストラクターとして県内医療職の指導を行っている。			
授業概要	この授業では主にスポーツ場面での傷害、リハビリテーションを実技を中心に進めていきます。またテーピングの基本についても学ぶ科目です。				
到達目標	スポーツ傷害は健康な人が高い競技パフォーマンスを身につけるために、身体局部に過度な身体的ストレスをかけることにより発症するという点で特殊性がある。このような人たちをサポートするには競技やポジション別にみられやすい傷害やその原因を理解し、競技場面を考慮した評価や理学療法、さらに競技復帰にむけたトレーニング、予防に向けたコンディショニングなど多岐にわたる対応が必要となる。この講義ではスポーツ傷害の理学療法について理解するとともに、スポーツ現場への活動や支援に関心を持つことを目的とする。				
授業計画	1. 下肢スポーツ傷害の臨床推論(森山) 2. トレーナー活動の実際(森山) 3. スポーツ傷害概論(高司) 4. 上肢のスポーツ傷害(高司) 5. 体幹のスポーツ傷害(高司) 6. 下肢のスポーツ傷害1(牧) 7. 下肢のスポーツ傷害2(牧) 8. スポーツテーピング(実習)(牧)		9. アスレティックリハビリテーション(実習含)(牧) 10. スポーツ傷害の評価、ウィーメンズヘルス(中村) 11. トレーナー活動の実際(中村) 12. 上肢スポーツ傷害の臨床推論(大島) 13. 体幹スポーツ傷害の臨床推論(大島) 14. トレーナー活動の実際(黒田) 15. トレーナー活動の実際(黒田) 単位認定試験		
成績評価	・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・第 2 版　スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド　臨床スポーツ医学編集委員会:編(文光堂)				
参考図書	・適宜、資料を配付する。				
その他	・理学療法士には必須の分野である。整形外科の知識を元に授業を展開していく。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	物理療法学(064)				
担当者	分藤英樹(実務経験者) 理学療法士	急性期病院で理学療法勤務の経歴を持つ。			
授業概要	物理療法は、理学療法の治療手段として運動療法と共に車の両輪をなすものである。そのため理学療法士を志す者として、各物理療法における物理特性および生理学的作用、効果適応を学習する。				
到達目標	1)各物理療法における物理特性および生理学的作用、効果、適応、禁忌を理解する。 2)実技演習を通してリハビリテーション専門職として活躍できうるだけの実践的スキルを身に付ける。				
授業計画	1. 物理療法総論　物理療法の定義と分類 2. 温熱療法総論　温熱療法の分類と生理的作用、適応と禁忌 3. ホットパック　使用方法と効果 4. パラフィン浴　使用方法と効果 5. ホットパック・パラフィン浴 演習 6. 超短波・極超短波療法 使用方法と効果 7. 超音波療法　使用方法と効果 8. 電磁波治療 演習 9. 光線療法　紫外線療法、レーザー療法 10. 寒冷療法　寒冷療法の生理学的作用、適応と禁忌 11. 寒冷療法 演習 12. グループ演習(温熱療法) 13. グループ演習(超短波、極超短波、超音波) 14. グループ演習(寒冷療法) 15. 定期試験				
成績評価	・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	物理療法学・実習(中山書店)				
参考図書	理学療法ハンドブック第2巻　治療アプローチ(協同医書出版社)				
その他	COVID-19 予防のため実技についてはグループを二つに分けて演習を行う予定				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(演習)
科目名	物理療法学演習(065)				
担当者	分藤英樹(実務経験者) 理学療法士	急性期病院にて呼吸器疾患や循環器疾患、術後 ICU の患者に対する理学療法の経験がある。			
授業概要	物理療法学(1 年次後期)に引き続き、通電療法や牽引療法などの各物理療法に関する知識・技術を修得する。また、物理療法に関連するテーマを設定して、実験方法やデータ収集などの研究方法論について演習を行う。				
到達目標	理学療法領域の臨床現場で活用されている通電療法や牽引療法などの各物理療法に関する知識・技術を修得すること。				
授業計画	1. 1 年次履修範囲の復習 2. 電気刺激療法(総論①) 3. 電気刺激療法(総論②) 4. 演習①(演習についての説明、テーマ選定) 5. 電気刺激療法各論(TENS、TES、FES) 6. 電気刺激療法各論(IFC、HVS) 7. 演習②(実験計画、データ収集) 8. 演習③(データ収集) 9. 牽引療法(頸椎・腰椎) 10. 水治療法 11. 演習④(データ分析) 12. 演習⑤(プレゼンテーション資料、抄録作成) 13. 物理療法研究発表会① 14. 物理療法研究発表会② 15. 定期試験および学習内容の振り返り				
成績評価	・成績評価は各単元の確認試験(20 点)、演習(40 点)、定期試験(40 点)にて行う。 ・演習は取り組みや発表内容、聴講態度も評定に加味する。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とし科目単位を付与する。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。				
教科書	・物理療法学・実習(中山書店)				
参考図書	・物理療法マニュアル(医歯薬出版)				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	日常生活活動学(066)				
担当者	岡部陽介(実務経験者) 理学療法士		リハビリテーション専門医のもと、理学療法士としての臨床経験を持ち、脳血管疾患、整形外科疾患、内科疾患など多様な疾患に対する ADL 訓練や在宅訪問等を行い、住宅改修や福祉用具の選定に関する経験を持つ。		
授業概要	この科目では、日常生活活動を構成する要素など基本的な概念を中心に学ぶとともに、日常生活活動(ADL)を支援するための機器について学習する。				
到達目標	日常生活活動(ADL)およびその関連項目の関係性を理解し，理学療法士の卵として ADL を捉えることが出来る。 ①ADL 及び QOL とは何か、説明することが出来る。 ②ADL 評価の意義について説明することが出来る。 ③移動補助具の基本的構造や種類を列挙できる。 ④基本的な補助具の調整及び活用方法が指導できる。				
授業計画	1.日常生活活動の概念・意義・範囲(IADL,APDL) 2.ADL と障害(ICF) 3.QOL の概念と構造 4.日常生活の評価 5.ADL を支援する機器(福祉用具、補装具) 6.車椅子①(概念、定義、使用目的、種類) 7.車椅子②(構造、寸法、保守管理、必要条件) 8.車椅子③(疾患別、調節方法) 9.歩行器・歩行車(定義、使用効果、必要条件など) 10.松葉杖①(使用効果、構造、保守管理、必要条件) 11.松葉杖②(処方、松葉杖歩行、階段昇降) 12.杖①(使用効果、構造、保守管理、必要条件など) 13.杖②(処方、杖歩行) 14.総合演習 15.定期試験(実技試験、筆記試験)				
成績評価	・成績評定は確認テストや自宅課題などの日々の学習成果、および定期試験の合計を 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。なお、授業への参加状況や取り組み姿勢等も成績評価に考慮する場合がある。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・日常生活活動テキスト(南江堂) ・脳卒中の機能評価　SIAS と FIM(金原出版)				
参考図書	・講義時に配布する資料				
その他	・1 年次後期の日常生活活動学実習に関連する科目である。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(実習)
科目名	日常生活活動学実習(067)				
担当者	岡部陽介(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として急性期～回復期病棟に勤務し、運動器疾患患者や脳血管疾患患者に対して日常生活活動の評価および指導を実施した経験がある。			
授業概要	日常生活活動の評価方法や、動作介助および指導に関する基本的な知識を学習する。また実習を通して、評価、動作介助および指導の技能についても学習していく。				
到達目標	1)基本動作の意義と種類を理解する。 2)姿勢変換の流れを理解し、安全で適切な動作介助及びADL練習、指導法を修得する。 3)身の回りの動作、生活関連動作に必要な要素を理解し、代表的な評価法を用いて能力低下を評価できる。				
授業計画	(1～7 コマ担当:佐藤) 1. Self care について 2. 生活関連動作について 3. ADL を支援する機器について 4. ADL評価(Barthel Index) 5. ADL評価(FIM) 6. ADL評価の実際 7. 中間試験(筆記試験)		(8～14 コマ担当:岡部) 8. 基本動作とは① 動作介助の意義、目的、基本原則② 9. 動作介助・指導方法(臥位) 10. 動作介助・指導方法(寝返り) 11. 動作介助・指導方法(起き上がり) 12. 動作介助・指導方法(坐位) 13. 動作介助・指導方法(立ち上がり) 14. 動作介助・指導方法(移乗) 15. 定期試験(実技試験、筆記試験)		
成績評価	中間試験(筆記試験 50 点)、定期試験(実技試験 20 点、筆記試験30点)により評定を行う。 合計点 60 点以上を合格とする。60 点未満の場合は再試験を受験することが可能。 再試験は 60 点以上を合格とし、その場合でも科目成績は 60 点と記録する。 成績基準は、S90 点以上、A80 点以上、B70 点以上、C60 点以上、D60 点未満とする。				
教科書	「日常生活活動学テキスト」(南江堂) 「もっと！らくらく動作介助マニュアル」(医学書院)				
参考図書	講義時に配布する資料				
その他	演習時は実習着・靴を用意すること。 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、オンライン講義となる場合がある(実技項目除く)				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位　30 時間	授業方法(講義)
科目名	義肢学(068)				
担当者	岡部陽介				
授業概要	肢体切断および義足に関する一般的知識を学習する。また、切断術前後の患者に対する理学療法過程についても学習する。				
到達目標	・切断に至る様々な原因の変遷を理解する。 ・義足に関する一般的知識(各義足の特徴、適合判定)を理解する。 ・切断術前・後における患者の全経過に対する理学療法過程を理解する。				
授業計画	1.　切断原因と評価方法 2.　短断端切断とカナダ式股義足 3.　大腿義足(ソケットの変遷) 4.　大腿義足(アライメント) 5.　大腿義足(膝継手) 6.　大腿義足(異常歩行) 7.　下腿義足(各種の下腿義足、アライメント) 8.　下腿義足(異常歩行) 9.　切断者に対する理学療法 10. 切断者に対するリハビリテーション 11. 義手の種類とそのチェックアウト 12. 義手の選び方 13. 上肢切断の運動療法・幻肢痛への対応について 14. 国家試験対策 15. 定期試験				
成績評価	・成績評価は合計点(100 点)で評価し、合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・リハビリテーション医学全書「切断と義肢」:医歯薬出版 ・義肢装具のチェックポイント:医学書院				
参考図書	・各義肢 ・講義プリント				
その他	・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、講義計画を変更しオンライン講義とすることもある。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 30 時間	授業方法(講義)
科目名	装具学(069)				
担当者	岡部陽介(実務経験者) 理学療法士	理学療法士として、回復期リハビリテーションにおける勤務経験があり、片麻痺患者の下肢装具や整形外科疾患の腰椎装具等リハビリテーション場面における装具調整経験を持つ。			
授業概要	装具の構造について学び、各疾患に対応した装具の目的、特徴について学習する。また、対象者のニーズに合わせた装具の調整について学ぶ。				
到達目標	装具の基本的な構造と機能を理解し、疾患や障害に適した装具の選択や装具療法を理解する。				
授業計画	1. 総論 2. 下肢装具の構成と構造 3. 下肢装具の機能 4. 短下肢装具 5. 長下肢装具・股装具・膝装具 6. 靴型装具 7. 下肢装具のチェックアウト 8. 体幹装具 9. 側弯装具 10. 上肢装具の構成と構造 11. 代表的疾患と上肢装具の適応① 12. 代表的疾患と上肢装具の適応② 13. 疾患別装具① 14. 疾患別装具② 15. 定期試験				
成績評価	・成績評定は確認テストや自宅課題などの日々の学習成果、および定期試験の合計を 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。なお、授業への参加状況や取り組み姿勢等も成績評価に考慮する場合がある。 ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・義肢装具のチェックポイント第 8 版(医学書院) ・15 レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　装具学(中山書店)				
参考図書	・装具学第 4 版(医歯薬出版株式会社) ・適宜、資料を配布する。				
その他	・神経理学療法学や運動器理学療法学などの理学療法における治療に関連する科目である。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法(講義)
科目名	高次脳機能障害学(070)				
担当者	大嶋　崇(実務経験者) 理学療法士	亜急性期、回復期、生活期で理学療法士として病院、施設にて勤務した経験より高次脳機能障害の患者を多く担当した経験を持つ。			
授業概要	高次脳機能障害の種類やその評価・診断法の習得を目的とする. 具体的には，CVAや脳外傷等で発症した種々の高次脳機能障害における知識の習得と，更にその評価法を学ぶ事により，実際の臨床現場に応用の出来るスキルを習得することを目的とする				
到達目標	高次脳機能障害の特徴を理解し、その患者を目の前にしたときにどのように対処すべきか、またどのような評価を行い、アプローチを行えばよいのかを理解することが出来る。				
授業計画	1. 高次脳機能障害総論 2. 失語症について 3. 意識障害について 4. 注意障害について 5. 失行・失認について 6. 半側空間無視・pusher 症候群について 7. 記憶障害・遂行機能障害について 8. 定期試験				
成績評価	・成績評価は合計点(100 点)で評価し、60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	・PT・OT のための高次脳機能障害 ABC　文光堂　網本　和　著 ・病気がみえる　脳・神経　MEDIC　MEDIA				
参考図書					
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	3 年前期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法(講義)
科目名	脊髄損傷理学療法学(071)				
担当者	大野智之				
授業概要	頸髄･脊髄損傷による四肢麻痺および対麻痺者の，受傷から社会復帰に至るまでのリハビリテーションの過程において，理学療法士のみならず他職種も含めた介入技術･知識について講義･実技を通し、包括的に学習する。				
到達目標	1)損傷高位の判定と神経学的回復，最終獲得機能の関係を述べることが出来る。 2)脊髄損傷固有の合併症とその管理方法について説明することが出来る。 3)残存機能別に動作のメカニズムについて説明することが出来る。 4)残存機能を考慮して住環境の設定を検討することが出来る。				
授業計画	1. 脊髄損傷の障害像について 2. 脊髄損傷固有の合併症とその管理方法，ならびに排泄管理に関する方法 3. 損傷高位の判定と神経学的回復，最終獲得機能の関係 4. 座位及び起居移動動作のメカニズムについて 5. 脊髄損傷高位別リハビリテーションの流れ 6. 歩行機能再建方法について 7. 脊髄損傷者の住環境の設定方法 8. 定期試験および学習内容の振り返り				
成績評価	･講義毎の理解度チェックや自宅学習課題を行い、科目成績の一部として反映させる。 ･科目成績は、講義毎の理解度チェックや自宅学習課題(20 点)、筆記試験(80 点)の合計 100 点満点で評価する。 ･成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ･受講態度(受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等)も成績評価に考慮することがある。				
教科書	･「脊髄損傷リハビリテーションマニュアル」(医学書院)				
参考図書	･脊髄損傷理学療法マニュアル 第 3 版				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	3 年前期	専門分野	■必修　□選択	1単位 15 時間	授業方法(講義)
科目名	摂食嚥下障害学(072)				
担当者	平岡　賢(実務経験者) 言語聴覚士	言語聴覚士として、一般病院へ勤務し摂食嚥下障害のある方への評価、リハビリテーション業務に従事していた。			
授業概要	この科目では、主に脳血管障害などにより摂食・嚥下機能に障害のある方に対しての評価及び治療方法について学ぶ科目である。また、授業の中で実際に嚥下食やとろみ付きのお茶などを経験し、どのような特徴があるのかなどを体験することより学ぶ講義である。				
到達目標	・摂食嚥下機能に関わる解剖・生理を理解する ・　　〃　　評価・検査の手順、方法を理解する ・摂食嚥下障害に対する治療・訓練の手順、方法の手技の実践				
授業計画	1　嚥下機能のメカニズムⅠ(先行期～食道期) 2　嚥下障害の病態のタイプ分類 3　嚥下機能検査(質問用紙、嚥下機能検査、)Ⅰ 4　嚥下機能検査(RSST、頸部聴診法、他)Ⅱ 5　嚥下機能補助検査(SVF検査) 6　嚥下訓練(間接訓練)Ⅰ(実技を含む) 7　嚥下訓練(直接訓練)Ⅱ 8　定期試験				
成績評価	・成績評価はレポート及び定期試験(100 点満点)にて行う ・成績基準は、S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・成績評価は合計点が 60 点以上を合格として科目単位を付与し、60 点未満では単位付与は行わない。 ・受講態度(受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等)も成績評価に考慮することがある。				
教科書	・嚥下障害ポケットマニュアル(医歯薬出版)				
参考図書	・適宜、資料を配付する。				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法(講義)
科目名	喀痰吸引法(073)				
担当者	大嶋崇				
授業概要	理学療法の対象者は広く、中でも意識障害や筋力低下・麻痺などにより、気道内・口腔内分泌物の喀出が困難な方も担当する。そのような場合に必須となる吸引についての知識と技術を学ぶ。				
到達目標	気道や肺、人工気道などに関しての解剖学的知識を理解し、吸引に際し、適切な使用機器名称が分かり、手技が実施できることを目標とする。また吸引に関してのリスクを理解し、呼吸理学療法(排痰法)と併用し、対象者の苦痛を軽減できる手技の獲得を目標とする。				
授業計画	1. 吸引についての基礎知識(上気道・下気道の解剖) 2. 理学療法士と吸引の背景 3. 標準予防策について 4. 吸引の定義と目的、アセスメント、必要な機器について 5. 誤嚥性肺炎の予防について 6. 吸引の実際(実技) 7. 吸引の実際(実技) 8. 単位認定試験				
成績評価	・成績評価は中間試験と期末試験を実施し、合計点(100 点)で評価する。範囲については、変更することがあるので、その場合は別途、指示する。合計点が 60 点以上を合格とする。 ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	呼吸理学療法標準手技(医学書院)				
参考図書	見てわかる　医療スタッフのための痰の吸引　基礎と技術(Gakken)				
その他	新型コロナウイルスの影響により、実技は 2 回に分けて実施する等の対応も検討する				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	3 年前期	専門分野	■必修　□選択	1単位 15 時間	授業方法(講義)
科目名	予防理学療法学(074)				
担当者	武田　知樹 理学療法士				
	久原　聡志(実務経験者) 理学療法士	大学病院に勤務する理学療法士として産業理学療法領域の研究および保健的介入の経験を有する。			
	牧迫飛雄馬(実務経験者) 理学療法士	国立長寿医療研究センター勤務の経験から、幅広い領域において保健疫学的な調査、および介入研究の経験を有する。			
授業概要	近年、理学療法分野において産業領域への介入など予防を目的として様々な取り組みが行われている。先進的な取り組みを提供している経験者より予防理学療法の重要性を学ぶ重要な科目である。				
到達目標	理学療法士が就労している医療福祉領域に目を向けると，医療・介護サービスの連携や医療機関の機能分化等によりケアミックスな施設が増加している。 今後、理学療法の対象は多様化し、疾病者や障がい者のみならず健康増進を必要とする幅広い年代層の国民にその対象を広げようとしている。そのような背景を踏まえ、理学療法士が求められる職能や就業形態が大きく変化しており、健康増進領域にかかわる理学療法士も近年増加している。 本科目では疾病予防や介護予防、さらには健康増進を含めたヘルスプロモーションに関連する包括的な知識や介入方法を修得することを目的としている。				
授業計画	1　ヘルスプロモーションと理学療法(1)（武田） 2　ヘルスプロモーションと理学療法(2)(武田) 3　ヘルスプロモーションと理学療法(3)(武田) 4　保健・予防領域の理学療法(1)(牧迫) 5　保健・予防領域の理学療法(2)(牧迫) 6　産業領域における理学療法(1)(久原) 7　産業領域における理学療法(2)(久原) 8　レポート試験および学習の振り返り				
成績評価	・成績評価はレポート形式(100 点満点、配点は武田 40 点、牧迫 30 点、久原 30 点)にて行う ・成績基準は、S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・成績評価は合計点が 60 点以上を合格として科目単位を付与し、60 点未満では単位付与は行わない。 ・受講態度(受講中の居眠り、内職、課題未提出、無断欠席等)も成績評価に考慮することがある。				
教科書	・理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション. 南江堂				
参考図書					
その他	・講師都合により、オンライン形式での授業となる。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	3 年前期	専門分野	■必修　□選択	1単位 15 時間	授業方法(講義)
科目名	救急救命法(075)				
担当者	北島　純子　他				
授業概要	この講義では赤十字救急法基礎講習及び救急員養成講習を受講し、患者のケガや急変に対して対応出来る能力を習得する。				
到達目標	理学療法場面における患者のケガや急変に対し、赤十字救急法基礎講習及び救急員養成講習を受講することにより、手当の基本(観察・体位・傷病者への接し方・協力者の要請)、一次救命処置(心肺蘇生・AED・協力者の要請)、急病(脳血管障害など)、けが、止血法、骨折の手当等の知識と技術を習得する。				
授業計画	1　赤十字救急法について 2　手当の基本(観察・体位・傷病者への接し方・協力者の要請) 3　一次救命処置(心肺蘇生・AED・異物除去) 4　急病・けが・止血法について 5　きずの手当 6　骨折の手当 7　搬送(搬送の必要性・搬送方法)、救護(災害時の心得・災害への備えなど) 8　実技・学科試験				
成績評価	・成績評価は出席状況、レポートの提出、ノートの提出(100 点)にて行う ・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する				
教科書	赤十字救急法救急員養成講習教本				
参考図書					
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	3 年前期	専門分野	■必修　□選択	1単位 15 時間	授業方法(講義)
科目名	徒手理学療法学(076)				
担当者	志賀　辰三(実務経験者) 理学療法士		理学療法士として、急性期・回復期病院で勤務し、運動器疾患を中心に徒手的治療手技と運動療法を併用しながら患者のリハビリテーション業務に従事している。徒手理学療法の認定理学療法士を取得している。		
授業概要	徒手療法は整形疾患のみならず他の疾患でも利用できる理学療法手技の一つであるため、その方法を中心に学ぶ科目である。				
到達目標	徒手療法は種々の学派により多岐にわたり論じられている。しかしながら，それらを整理整頓してみると概ね関節モビライゼーションと軟部組織モビライゼーションに大別できる。徒手療法は今後理学療法士として業をなしていく上では不可欠な手技の一つであり，手技に固執することなく，その理論的根拠を理解したなかで活用していく必要がある。したがって，学生には一つの手技に偏って治療テクニックを習得するより，公平な視点から各手技の理論や方法論など，それぞれの違いを理解し，臨床的な視点よりその手技を用いるにいたる評価方法や目的，選択理由などそれぞれの治療技術の適応について学ぶ。実技については進め方や徒手療法への最初の接点として感じること・考えることを主体とする。				
授業計画	1　徒手療法総論 － 評価Ⅰ(問診・視診からの臨床推論) 2　徒手療法総論 － 評価Ⅱ(各種検査からの臨床推論) 3　徒手療法総論 － 徒手療法理論(歴史と基礎理論) 4　徒手療法各論 － 関節モビライゼーション 評価 5　徒手療法各論 － 関節モビライゼーション 治療 6　徒手療法各論 － 軟部組織モビライゼーション 評価 7　徒手療法各論 － 軟部組織モビライゼーション 治療 8　定期試験				
成績評価	・定期試験(筆記試験 100 点)にて評価する。 ・60 点以上を合格とする。				
教科書	・適宜、資料を配布する。				
参考図書	・適宜、資料を配付する。				
その他					

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 15 時間	授業方法（演習）
科目名	地域理学療法学(077)				
担当者	佐藤圭子（実務経験者） 理学療法士	理学療法士として医療機関に所属し、回復期リハビリテーションや訪問リハビリテーションを通して、地域理学療法に携わった経験を有している。			
授業概要	地域理学療法は、地域を基盤として行われる理学療法士による専門的援助である。 本科目では、地域で生活する高齢者や障がい者の生活機能の維持・向上に向けて、理学療法士の立場から支援していくための知識・方法について学修する。				
到達目標	・地域理学療法の概要を理解する。 ・地域、在宅における理学療法の方法を理解する。				
授業計画	1. 地域理学療法とは 2. 地域における社会資源 3. 地域におけるリスクマネジメント 4. 地域における対象者の捉え方 5. 住環境評価と住環境整備 6. 地域理学療法の実践・対象者の捉え方～脳血管疾患①～ 7. 地域理学療法の実践・対象者の捉え方～脳血管疾患②～ 8. 地域理学療法の実践・対象者の捉え方～パーキンソン病①～ 9. 地域理学療法の実践・対象者の捉え方～パーキンソン病②～ 10. 地域理学療法の実践・対象者の捉え方～骨関節障害①～ 11. 地域理学療法の実践・対象者の捉え方～骨関節障害②～ 12. 地域理学療法の実践・対象者の捉え方～内部障害①～ 13. 地域理学療法の実践・対象者の捉え方～内部障害②～ 14. まとめ 15. 定期試験				
成績評価	・成績は筆記試験 100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。 ・60 点未満の場合は再試験を受験することが可能であり、再試験は 60 点以上を合格とする（再試験合格は 60 点と記録）。 ・成績基準は、S90 点以上、A80 点以上、B70 点以上、C60 点以上、D60 点未満とする				
教科書	・PT/OT ビジュアルテキスト　地域リハビリテーション学（羊土社）				
参考図書	・適宜、資料（講義時に配布）を使用する。				
その他	・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、オンラインで行うこともある。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	専門分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法（講義、見学）
科目名	生活環境論（078）				
担当者	鈴木義弘（実務経験者） 教授	大学（工学部）で住環境を中心に研究している。都市つくりなどに対する豊富な指導経験を有す。大分大学理工学部　教授			
	松尾清美（実務経験者） 2 級建築士	大学などで住環境や福祉用具、補装具の開発などの幅広い分野に対し豊富な経験を有す。前　佐賀大学教育研究院　医学域医学系　准教授			
	吉岡恭介（実務経験者） 作業療法士	作業療法士として精神科病院に勤務し、精神障害や心療内科に係る障害を持ちながら地域生活を送る対象者の経験を有す。その後、専門学校教員として精神科作業療法の講師を担っている。			
授業概要	環境因子は、障害者（児）の生活機能に強く影響する。身体機能障害者（児）を中心に街や家屋の環境整備について福祉用具や補装具、住宅改修について学ぶ				
到達目標	障害者を取り巻く生活環境において、QOL を獲得するために必要な、代償機能的なアプローチの基礎的な知識を習得する。 ①人間工学の基礎知識を理解し、人に優しい環境について説明できるようになる。 ②環境調整の基礎知識を理解し、障害に応じた処方・チェックアウト・助言ができるようになる。 ③福祉用具の基礎知識を理解し、障害に応じた処方ができるようになる。 ④座位保持装置の基礎知識を理解し、障害に応じた処方ができるようになる。				
授業計画	1.　生活環境整備の視座～人にやさしい生活環境を考える～（鈴木先生） 2.　日本建築様式の概要・近代日本住宅の成立とその課題（鈴木先生） 3.　ライフスタイルの現状と課題（鈴木先生） 4.　高齢者の生活環境（鈴木先生） 5.　ハウスアダプテーション～住環境整備の進め方～（鈴木先生） 6.　住宅改造の基本技術（鈴木先生） 7.　住宅建築の基礎知識（鈴木先生） 8.　福祉のまちづくりと交通（鈴木先生） 9.　バリアフリーとユニバーサルデザイン（吉岡先生） 10. シーティング（モジュラー型車椅子を中心に）（松尾清美先生） 11. 福祉用具の概念と適用（松尾清美先生） 12. バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインについて（松尾清美先生） 13. 見学実習（介護研修センター） 14. 見学実習（介護研修センター） 15. 定期試験				
成績評価	・　成績評価は 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。 ・　成績の基準は S:90 点以上、A：80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする。 ・　再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点で記録する。				
教科書	・　福祉用具支援論　テクノエイド協会 ・　生活環境論テキスト 2022（印刷資料）				
その他	・介護研修センターの見学にはレポート課題が出されます。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門分野	■必修　□選択	2 単位 30 時間	授業方法（講義・実習）
科目名	障がい者スポーツ論（079）				
担当者	池部純政（実務経験者）	（社福）太陽の家に理学療法士として勤務し、常日頃よりパラスポーツに携わり指導を行っている。また、日本パラ陸上競技連盟クラス分け委員長、大分県障害者スポーツ指導者協議会会長として大分県のパラスポーツの発展に大きく貢献している。			
授業概要	障がい者スポーツ指導者初級指導員の資格を取得し、障がい者の余暇活動としてのスポーツに関わり、障がい者の生活の一部を支援する経験を体験する。				
到達目標	・障がいやパラスポーツ、安全管理等に関する基本的知識や技術を習得する。 ・障がい者スポーツ大会等に参加し、地域の障がい者と交流を図る。				
授業計画	【講義】 1. ガイダンス 障がい者のスポーツ総論（意義と理念） 2. パラスポーツに関する諸施策 3. 日本パラスポーツ協会資格認定制度と指導者の役割 4. パラスポーツ推進の取り組み（障がい者スポーツ指導者制度・指導者協議会等） 5. スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質 6. 全国障がい者スポーツ大会と国際パラリンピック大会 7. スポーツにおける理学療法士・作業療法士の役割 8. 障害の理解とスポーツⅠ（知的障がい） 9. 障害の理解とスポーツⅡ（精神障がい） 10. 障害の理解とスポーツⅢ（身体障がい・脳原性疾患など） 11. 障害の理解とスポーツⅣ（身体障がい・脊髄性疾患、切断など） 12. 障害区分総論（クラス分け） 13. 安全管理とスポーツ指導上の留意点 14. コミュニケーションスキルの基礎（障がい特性に応じたコミュニケーション方法等） 【実技】 15. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施（大分県障がい者スポーツ大会の見学） 16. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施（大分国際車いすマラソン大会の見学） 17. 障がい者との交流とスポーツに対する工夫（ボッチャと卓球バレー） 18. 障がい者との交流（フライングディスク競技の体験と競技会のボランティア体験）				
成績評価	・成績評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする（レポート課題） ・成績の基準は S:90 点以上、A:80 点以上、B:70 点以上、C:60 点以上、D:60 点未満とする ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても科目成績は 60 点と記録する ・講義・実技を欠席したものは補講あるいは課題を課します。				
教科書	障がい者スポーツ指導教本（ぎょうせい）、全国障がい者スポーツ大会競技規則集（日本障がい者スポーツ協会）他. 講義時別途配布プリント				
参考図書	他. 講義時別途配布プリント、障がい者のスポーツの DVD				
その他	講義の一部は外来講師による。また，実技は後期に実施する競技種目もある。				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年前期	専門分野	■必修　□選択	1単位 45 時間	授業方法(実習)
科目名	見学実習(080)				
授業概要	1)一日を通した理学療法士の業務内容全般 ・様々な疾患の評価過程や運動療法場面など ・歩行動作や ADL 指導の場面 ・温熱療法や通電療法などの物理療法場面 ・通所リハや訪問リハなどの場面 2)理学療法室での患者への説明や対応 3)理学療法のカルテ記録やカンファレンス 4)作業療法や言語聴覚療法などの他のリハビリ部門 5)看護部，検査部，レントゲン，薬剤部などの他部門 6)病院全体の施設や設備				
到達目標	1)職場や指導者(理学療法士)のスケジュールに従って共に行動することができる. 2)指導者の監督の下，様々な理学療法場面を見学して疑問に思ったことを質問できる. 3)職員や対象者に対し社会人として相応しいコミュニケーションがとれる.				
授業計画	1)実習時間は 1 日 8 時間，5 日間(40 時間)とする. 2)半日の場合は実習時間 4 時間とする. 3)実習時間外に行う学修は 1 日 1 時間以上行う. 4)実習時間外に行う学修等には，デイリーノートや課題，自己学習等をあてる.				
成績評価	1)実習中の学生の状況，実習報告書等を参考に，総合的な視点より学校が判定する. 2)秀，優，良，可，不可の 5 段階で判定する.				
その他	・実習指導者は，免許を受けた後5年以上業務に従事した理学療法士とする. ・欠席は 1 日までとし，それを超える欠席は超えた日数を補う. ・欠席や遅刻，早退等により，実習日数時間を満たさない場合は成績は判定されない．個別に学校へ相談のこと.				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	1 年後期	専門分野	■必修　□選択	1 単位 45 時間	授業方法(実習)
科目名	訪問通所リハ実習(081)				
授業概要	1)介護体験 ①ケアスタッフが行う食事・入浴・更衣・排泄・整容などの生活援助を見学する. ②スタッフの指導・監督の下, その援助の一部を体験する. 2)集団指導・レクリエーション ③集団指導やレクリエーションを見学する. ④スタッフの指導の下, 集団指導・レクリエーションに参加し, その内容の一部を体験する. 3)対象者の誘導および生活像の把握 ⑤対象者のスケジュールにもとづき, 訓練やレクリエーション, 食事・排泄・入浴などへの誘導を行う. ⑥それを通し対象者がどのような日々を過ごしているかなど, 一日の生活を把握し考察する. 4)通所事業や訪問事業への参加 ⑦通所や訪問など様々な事業に参加・体験することにより, 地域リハビリテーションの必要性を考察する. 5)理学療法士の業務内容全般の見学 ⑧介護施設における理学療法士の業務内容(カンファレンスや理学療法場面など)を見学し, 職業の理解を深める.				
到達目標	1)要援助者に対して生活を援助する視点を持つことができる. 2)社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶や言葉遣いなど)ができる. 3)今後の学内教育にむけての動機を高めることができる. ※ 上記以外にも, 適宜必要に応じ指導者と学生間で設定してください.				
授業計画	1)実習時間は 1 日 8 時間, 5 日間(40 時間)とする. 2)半日の場合は実習時間 4 時間とする. 3)実習時間外に行う学修は 1 日 1 時間以上行う. 4)実習時間外に行う学修等には, デイリーノートや課題, 自己学習等をあてる.				
成績評価	1)実習中の学生の状況, 実習報告書等を参考に, 総合的な視点より学校が判定する. 2)秀, 優, 良, 可, 不可の 5 段階で判定する.				
その他	・実習指導者は, 免許を受けた後5年以上業務に従事した理学療法士とする. ・欠席は 1 日までとし, それを超える欠席は超えた日数を補う. ・欠席や遅刻, 早退等により, 実習日数時間を満たさない場合は成績は判定されない. 個別に学校へ相談のこと.				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年前期	臨床実習	■必修　□選択	2 単位 90 時間	授業方法(実習)
科目名	評価実習Ⅰ(082)				
担当者	大野智之、他各施設の臨床経験 5 年以上の実務経験者				
授業概要	実習方法は，実習生が診療チームの一員として加わり，臨床実習指導者の指導･監督の下で行う診療参加型臨床実習を基本とする.				
到達目標	理学療法における評価技術の見学や，実際の患者に対する基本的な評価技術の経験を通して，理学療法評価に関する基礎的知識の確認や評価技術の習得を目標とする. 1)指導者の指示のもと，積極的な実習を行うことができる. 2)遅刻や欠席をする場合には，始業時間までに指導者に連絡することができる. 3)学習すべき課題を見つけ，自発的に学習を進めることができる. 4)課題を期日までに提出することができる. 5)患者とのコミュニケーションを積極的にとることができる. 6)理学療法業務の全般的な流れを説明できる. 7)関節可動域検査や徒手筋力検査などの基本的評価を実施できる. 8)検査測定の結果より患者の問題点を抽出できる.				
授業計画	1)実習時間は 1 日 8 時間，10 日間(80 時間)とする. 2)半日の場合は実習時間 4 時間とする. 3)実習時間外に行う学修は 1 日 1 時間程度行う. 4)実習時間外に行う学修等には，デイリーノートや課題，自己学習等をあてる.				
成績評価	1)実習中の学生の状況，実習報告書等を参考に，総合的な視点より学校が判定する. 2)秀，優，良，可，不可の 5 段階で判定する.				
その他	･実習指導者は，免許を受けた後5年以上業務に従事した理学療法士とする. かつ，①厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会，もしくは②厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士･作業療法士･言語聴覚士養成施設教員等講習会を修了した者とする. ･欠席は 2 日までとし，それを超える欠席は超えた日数を補う. ･欠席や遅刻，早退等により，実習日数時間を満たさない場合，成績は判定されない. 個別に学校へ相談のこと.				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	2 年後期	臨床実習	■必修　□選択	2 単位 90 時間	授業方法(実習)
科目名	評価実習Ⅱ(083)				
担当者	大野智之、他各施設の臨床経験 5 年以上の実務経験者				
授業概要	実習方法は，実習生が診療チームの一員として加わり，臨床実習指導者の指導･監督の下で行う診療参加型臨床実習を基本とする.				
到達目標	理学療法における評価技術の見学や，実際の患者に対する基本的な評価技術の経験を通して，理学療法評価に関する基礎的知識の確認や評価技術の習得を目標とする. 1) 指導者の指示のもと，積極的な実習を行うことができる. 2) 遅刻や欠席をする場合には，始業時間までに指導者に連絡することができる. 3) 学習すべき課題を見つけ，自発的に学習を進めることができる. 4) 課題を期日までに提出することができる. 5) 患者とのコミュニケーションを積極的にとることができる. 6) 理学療法業務の全般的な流れを説明できる. 7) 関節可動域検査や徒手筋力検査などの基本的評価を実施できる. 8) 検査測定の結果より患者の問題点を抽出できる.				
授業計画	1)実習時間は 1 日 8 時間，10 日間(80 時間)とする. 2)半日の場合は実習時間 4 時間とする. 3)実習時間外に行う学修は 1 日 1 時間以上行う. 4)実習時間外に行う学修等には，デイリーノートや課題，自己学習等をあてる.				
成績評価	1)実習中の学生の状況，実習報告書等を参考に，総合的な視点より学校が判定する. 2)秀，優，良，可，不可の 5 段階で判定する.				
その他	･実習指導者は，免許を受けた後5年以上業務に従事した理学療法士とする. かつ，2020 年度以降の入学生の実習指導に際しては，①厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会，もしくは②厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士･作業療法士･言語聴覚士養成施設教員等講習会を修了した者とする. ･欠席は 2 日までとし，それを超える欠席は超えた日数を補う. ･欠席や遅刻，早退等により，実習日数時間を満たさない場合は成績は判定されない. 個別に学校へ相談のこと.				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	3 年前期	専門分野	■必修　□選択	8 単位 360 時間	授業方法(実習)
科目名	総合実習Ⅰ(084)				
担当者	分藤英樹、他各施設の臨床経験 5 年以上の実務経験者				
授業概要	実習方法は，実習生が診療チームの一員として加わり，臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習を基本とする．臨床実習指導者と患者情報を共有し，以下の過程を経験する． 1)理学療法業務全般の経験 ① リハ室備品の整理および清掃など ② 回診，カンファレンス，院内研修への参加 ③ 通所や訪問事業への参加 ④ 診療報酬システムの把握 2)課題レポート，文献抄読 必要に応じて課題レポートや文献抄読などの課題が課されることがある． 3)実習報告書のフィードバックについて 実習終了時に実習時の状況や到達度について，指導者より直接フィードバックを受ける． 4)学校への記録の提出 実習終了後，実習で使用した記録を提出する． 5)実習後セミナーへの参加および発表				
到達目標	1)評価・情報収集を指導者の助言・指導のもと行うことができる 2)治療目標と治療計画を指導者の助言・指導のもと立案することができる 3)治療プログラムを指導者の助言・指導のもと実施することができる 4)治療の効果判定を指導者の助言・指導のもと行うことができる				
授業計画	1)実習時間は 1 日 8 時間，40 日間(320 時間)とする． 2)半日の場合は実習時間 4 時間とする． 3)実習時間外に行う学修は 1 日 1 時間以上行う． 4)実習時間外に行う学修等には，デイリーノートや課題，自己学習等をあてる．				
成績評価	1)実習中の学生の状況，実習報告書等を参考に，総合的な視点より学校が判定する． 2)秀，優，良，可，不可の 5 段階で判定する．				
参考図書	「実習の手引き　第 6 版」を参照すること				
その他	・実習指導者は，免許を受けた後5年以上業務に従事した理学療法士とする．かつ，2020 年度以降の入学生の実習指導に際しては，①厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会，もしくは②厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を修了した者とする． ・欠席は 2 日までとし，それを超える欠席は超えた日数を補う． ・欠席や遅刻，早退等により，実習日数時間を満たさない場合，成績は判定されない．個別に学校へ相談のこと．				

令和 5 年度　大分リハビリテーション専門学校　理学療法士科

基本情報	3 年前期	専門分野	■必修　□選択	8 単位 360 時間	授業方法(実習)
科目名	総合実習Ⅱ(085)				
担当者	分藤英樹、他各施設の臨床経験 5 年以上の実務経験者				
授業概要	実習方法は，実習生が診療チームの一員として加わり，臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習を基本とする．臨床実習指導者と患者情報を共有し，以下の過程を経験する． 1)理学療法業務全般の経験 ① リハ室備品の整理および清掃など ② 回診，カンファレンス，院内研修への参加 ③ 通所や訪問事業への参加 ④ 診療報酬システムの把握 2)課題レポート，文献抄読 必要に応じて課題レポートや文献抄読などの課題が課されることがある． 3)実習報告書のフィードバックについて 実習終了時に実習時の状況や到達度について，指導者より直接フィードバックを受ける． 4)学校への記録の提出 実習終了後，実習で使用した記録を提出する．				
到達目標	1)評価・情報収集を指導者の助言・指導のもと行うことができる 2)治療目標と治療計画を指導者の助言・指導のもと立案することができる 3)治療プログラムを指導者の助言・指導のもと実施することができる 4)治療の効果判定を指導者の助言・指導のもと行うことができる				
授業計画	1)実習時間は 1 日 8 時間，40 日間(320 時間)とする． 2)半日の場合は実習時間 4 時間とする． 3)実習時間外に行う学修は 1 日 1 時間以上行う． 4)実習時間外に行う学修等には，デイリーノートや課題，自己学習等をあてる．				
成績評価	1)実習中の学生の状況，実習報告書等を参考に，総合的な視点より学校が判定する． 2)秀，優，良，可，不可の 5 段階で判定する．				
その他	・実習指導者は，免許を受けた後5年以上業務に従事した理学療法士とする．かつ，2020 年度以降の入学生の実習指導に際しては，①厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会，もしくは②厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を修了した者とする． ・欠席は 2 日までとし，それを超える欠席は超えた日数を補う． ・欠席や遅刻，早退等により，実習日数時間を満たさない場合は成績は判定されない．個別に学校へ相談のこと．				